

## 教育学研究科教員業績一覧

(2011年4月1日から2012年3月31日)

### 基礎教育学コース

今井康雄(教授)

#### 〈雑誌論文〉

河野哲也／松丸啓子／今井康雄「心の哲学と「力」の概念」『教育哲学研究』第103号, 2011年5月, 142-148頁。

今井康雄「『教育批判』の意味——ベンヤミンの「暴力批判論」を手がかりに」『近代教育フォーラム』第20号, 2011年9月, 143-160頁。

Imai, Yasuo: "Why does language matter to education? A comparison of Nietzschean and Wittgensteinian views", in: *Zeitschrift fuer Erziehungswissenschaft*, 14. Jg., Heft 3, September 2011, pp. 489-500.

#### 〈その他〉

今井康雄「はじめに——大学との双方向型の連携に向けて」『東大附属論集』東京大学教育学部附属中等教育学校, 第55号, 2012年3月, 1-2頁。

金森修(教授)

#### 〈著書〉

1) 『VOL 05 特集：エピステモロジー』共編著：金森修・近藤和敬・森元斎以文社, 2011年6月30日, pp.1-277.

2) 『昭和前期の科学思想史』編著  
勁草書房, 2011年10月20日, pp.1-420+i-vii, i-lvii

#### 〈分担執筆〉

1) 「エピステモロジーに政治性はあるのか？」＋「福島第一原発の事故に寄せて」金森修・近藤和敬・森元斎編『VOL 05 特集：エピステモロジー』以文社, 2011年6月30日, pp.194-211＋pp.212-214.

2) 「G・バシュラール『科学的精神の形成』：あまりに鮮やかな間違いの群れ」

『科学』編集部編『科学者の本棚』岩波書店, 2011年9月27日, pp.52-55.

cf 「心にのこる一冊：バシュラール『科学的精神の形成』」(参考論文146)

『科学』vol.76, no.11, nov. 2006, 2006年11月1日, pp.1160-1161.の本への再録

3) 「〈科学思想史〉の来歴と肖像」

金森修編『昭和前期の科学思想史』勁草書房, 2011年10月20日, pp.1-103.

4) 「第二部4：1985-2007年 ポスト近代の到来」『思想』編集部編『『思想』の軌跡——1921-2011』岩波書店, 2012年2月24日, 第II部4, pp.170-213.

初出は参考論文155：「思想の100年をたどる(4)」座談会：荻野美穂・金森修・杉田敦・吉見俊哉『思想』第1008号, 2008年4号, 2008年4月5日, pp.155-201.

5) "Fixation de l'instantanéité de la forme"

Shin Abiko, Hisashi Fujita & Naoki Sugiyama eds., *Disseminations de L'évolution créatrice de Bergson*, Olms, coll. "Europaea memoria", march 2012, pp. 137-150.

#### 〈論文〉

1) 「〈人文知〉の不可還元性のために」

『研究室紀要』(東京大学大学院教育学研究科・基礎教育学研究室), 第37号, 2011年6月30日, pp.11-20.

2) "After the Catastrophe---- Rethinking the Possibility of Breaking with Nuclear Power"

*Peace from Disasters*, Proceedings of HiPec International Peacebuilding Conference 2011, September 18-19, 2011, Hiroshima International Conference Hall, pp.87-92.

3) 「科学技術と環境倫理」

『環境情報科学』vol.40, no.3, 2011年11月28日, pp.4-8.

4) 「公共性の黄昏」

『現代思想』vol.39, no.18, 2011年12月1日, pp.136-150.

5) 「〈放射能国家〉の生政治」

檜垣立哉編『生命と倫理の原理論』大阪大学出版会, 2012年3月30日, pp.85-108.

6) 「自律的市民の〈叛乱〉のために」『Kototoi』

Vol.002, 2012年3月31日, pp. 63-75.

#### 〈参考論文・エッセイ〉

1) 「カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』：〈公共性〉の創出と融解」『現代思想』七月臨時増刊号：震災以後を生きるための50冊, 2011年6月15日, Vol.39-9, pp.86-89.

2) 「3.11後を考えるために：ホルクハイマー・アドルノ『啓蒙の弁証法』岩波文庫」

『東京新聞』2011年6月19日

3) 「〈翳り〉の誘惑」

『Topophilie 夢想の空間』東京大学大学院総合文化研究科，田中純ゼミ，2011年8月，pp.22-27.

4) 「臓器移植法改正案に反対した科学哲学者，金森修さんの思い」

田中紗織他編『哲楽』第三号，発行：田中紗織，2012年1月30日，pp.29-36.

#### 〈書評〉

1) 「ポスト・フーコー期に突入した中で」

『週刊読書人』第2884号，2011年4月8日

2) 「優れた〈科学政策の考古学〉」

『図書新聞』第3009号，2011年4月9日

3) 「人格概念の来歴を探り，その問題点を探る箇所は読み応えがある」

『図書新聞』第3014号，2011年5月21日

4) 「2011年上半年三冊」

『週刊読書人』第2898号，2011年7月22日

5) 「2011年上半年読書アンケート」

『図書新聞』第3023号，2011年7月23日

6) 「人工的生命と人間の違いを探る」『日本経済新聞』，2011年7月31日

7) 「近代科学革命以前の数的世界」

『日本経済新聞』，2011年10月16日

8) 「遺伝子中心主義に対する多方面からの懐疑」

『週刊読書人』第2913号，2011年11月4日

9) 「2011年下半年の3冊」

『図書新聞』第3043号，2011年12月24日

10) 「〈異論〉に異論あり！」

『週刊読書人』第2921号，2012年1月6日

11) 「2011年読書アンケート」

『みすず』第601号，2012年2月1日，pp.4-5

12) 「〈動物靈魂論〉の最終相を刻む」

『図書新聞』第3048号，2012年2月4日

13) 「明確な〈脱原発〉に向けて——市田良彦氏の反論に応答して」

『週刊読書人』第2926号，2012年2月10日

#### 川本隆史(教授)

##### 〈単行本〉

NHK「Q」制作班 編，『Q わたしの思考探究②』，NHK出版，2011年，総ページ数120（\*川嶋あい氏との対談「幸せを感じる社会とは」を巻頭に収録）。

録）。

##### 〈論文〉

川本隆史（単著），「地異に臨む社会倫理学へ——震災，ケア，正義をめぐる断想」，『臨床精神病理』第32巻第1号，日本精神病理・精神療学会，2011年，pp.3-6.

川本隆史（単著），「Cura PersonalisとRenovatio Mundi——三人のイエズス会士に学んだこと」，『カトリック教育研究』第28号，日本カトリック教育学会，2011年，pp.44-51.

##### 〈その他の業績〉

川本隆史（シンポジウム提題），「《全体的かつ個別的に》（“Omnes et singulatim”）——正義とケアの社会倫理学に向かって」，東北社会学会，2017年7月17日（宮城学院女子大学）。

川本隆史（基調講演），「正義とケアへの教育——たえずロールズとノディングズを顧みつつ」，法と教育学会，2011年9月4日（学習院大学）。

川本隆史（招聘講演），「記憶のケアということ——国際理解の一途として」，栃木県高等学校教育研究会国際理解教育部会，2011年11月30日（栃木県総合教育センター）。

川本隆史（シンポジウム提題），「震災後に，正義とケアを編み直す——《脱中心化》と《脱集計化》を通じて」，日本農業経済学会，2012年3月30日（九州大学伊都キャンパス）。

#### 小玉重夫(教授)

##### 〈著書〉

森川輝紀・小玉重夫（共編著）『教育史入門』（共著者 森川輝紀，木村政伸，橋本美保，貝塚茂樹，2012年3月，全224頁）

##### 〈雑誌論文〉

小玉重夫（単著）「教育政治学の方へ——アルチュセール以後のイデオロギー論に着目して」『日本教育政策学会年報』第18号，2011.7. pp.8-17

小玉重夫（単著）「なぜ、『放射線教育』が必要か？」『教職研修』2012年2月号，教育開発研究所，2012.1. pp.92-93

##### 〈学校口頭発表〉

小玉重夫「不登校・中退問題における「包摂・排除」論の位相——難民化する子ども——」日本教育社会学会第63回大会発表，2011年9月24日，お茶の水女子大学

Shigeo Kodama “Citizenship Education and Politics

in Japan: Focusing on the context of globalization and postindustrial society”, The 10th Annual Hawaii International Conference on Education, January 5-8, 2012, Honolulu, Hawaii

〈その他〉

小玉重夫 (単著) 「シティズンシップと学校」 汐見稔幸ほか編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房, 2011.4., pp.250-251

小玉重夫 (単著) 「インタビュー 政治的シティズンシップと社会的シティズンシップ」(聞き手 森俊二)『高校生活指導』189号, 青木書店, 2011年6月, pp.6-13

小玉重夫 (単著) 「シティズンシップ教育と生活指導」『高校生活指導』192号, 青木書店, 2012年3月, pp.110-111

田中智志 (教授)

〈著書〉

田中智志／橋本美保 (共著), 『プロジェクト活動——知と生を結ぶ学び』, 東京大学出版会, 2012.2, 総頁数190.

〈雑誌論文〉

田中智志 (単著), 「共存の言表——道徳と倫理感覚」教育哲学会編『教育哲学研究』第103号, 2011.10, pp.2-8.

田中智志 (単著), 「教育批判の根拠——デューイの協同性と宗教性」, 『近代教育フォーラム』第20号, 2011.10, p.113-121.

田中智志 (単著), 「メリトクラシーと機能的分化——存在論的關係性へ」(北野秋男編), 『現代アメリカのアカウンタビリティ・アセスメント教育行政の総合的研究』(研究成果報告書[2009年度～2011年度]), 2012.3, pp.133-138.

田中智志 (単著), 「教育学分野」, 『蛭雪時代増刊 全国大学学部学科案内 2012年版』, 旺文社, 2012.3, pp.292-3.

谷本宗生 (助教)

〈雑誌論文〉

谷本宗生 (単著), 「試論・第四区における高等学校設置をめぐる地域事情について」, 『1880年代教育史研究年報』第3号, 2011.10, pp.89-99.

谷本宗生 (単著), 「渡邊洪基初代帝国大学総長の施策について—『帝国大学年報』を手がかりに—」, 『東京大学史史料室ニュース』第48号, 2012.3,

pp.2-3.

〈その他〉

谷本宗生 (書評), 吉川卓治著『公立大学の誕生 近代日本の大学と地域』, 教育史学会『日本の教育史学』第54集, 2011.10, pp.221-224.

谷本宗生 (事典), 「銀時計組」「貢進生」「工部大学校」「古典講習科」「駒場農学校」, 宮地正人・佐藤能丸・櫻井良樹編『明治時代史大辞典』第1巻(あーこ), 2011.11.

谷本宗生 (学会発表), 「総長関係資料と教育史・大学史研究—渡邊洪基・古在由直資料から—」, 東京大学情報学環附属社会情報研究資料センター高度アーカイブ化事業共同研究会, 2011.11.

比較教育社会学コース

白石さや (教授)

〈著書〉

白石さや (単著) 「マンガというイノベーションとそのグローバルな普及モデル」, Edited by YAMADA Shoji and John BREEN, 『Understanding Contemporary Japan : 日本の文化と社会の潮流』International Symposium in Indonesia 2010: International Research Center for Japanese Studies 国際日本文化研究センター, 2011.4, 167-176ページ。

〈雑誌論文〉

白石さや (単著) 「総括：グローバル化するポピュラーカルチャーと国際文化学」, (日本国際文化学会創立10周年記念特別シンポジウム『戦略としての文化と国際文化学：3/11後の展望：第二部 グローバル化するポピュラーカルチャーと国際文化学』のモデレーター総括), 『インターカルチュラル 10：日本国際文化学会創立10周年記念号』日本国際文化学会年報, 2012.3.31, 65-67ページ。

〈学会・学術活動〉

『国際シンポジウム2：グローバル化するポピュラーカルチャーと国際文化学』モデレーター&コーディネーター, 日本国際文化学会創立10周年記念特別シンポジウム『戦略としての文化と国際文化学：3/11後の展望』, 日本国際文化学会主催：名桜大学および文教大学共催：国際文化会館後援, 於名桜大学(名護市), 2011.7.2.

〈招待講演〉

「私はここに属さない：グローバル化時代の若者文化を考える」成蹊大学アジア太平洋研究センター

主催連続講演会『グローバル化時代の人の移動とアイデンティティ：若年層に着目して』於成蹊大学アジア太平洋研究センター。2011.12.8.

#### 〈その他の教育活動〉

2011年度～現在

東京大学学部横断型教育プログラム『バリアフリー教育』の開設およびその一環としての教育学部『バリア・スタディーズ』開講。

#### 主な在外研究活動

2011年10月28日—11月4日

文化的社会的バリアフリー教育に関する意見交換（ハーバード大学Mary Steedly教授およびコロンビア大学Marilyn Ivy准教授）

2012年3月8日—19日

マンガ・アニメのグローバル化に関するイタリア調査：ローマ・フレンツェ・ボローニャ・ミラノ

#### 〈その他の報告書〉

白石さや他編集『東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター活動報告 第一号』177ページ。2011.5.

### 恒 吉 僚 子 (教授)

#### 〈分担執筆〉

Tsuneoyoshi, Ryoko (単著) “The ‘Internationalization’ of Japanese Education and the Newcomers: Uncovering the Paradoxes.” *Reimagining Japanese Education: Borders, Transfers, Circulations, and the Comparative*, David Blake Willis and Jeremy Rappleye, eds. Oxford: Symposium Books, 2011, pp.107-126.

Tsuneoyoshi, Ryoko (単著) “Communicative English in Japan and ‘Native Speakers of English’,” Houghton, Stephanie, Damian Rivers, eds. *Native-Speakerism in Japan: Intergroup Dynamics in Foreign Language Education*. Clevedon: Multilingual Matters, 2012, pp.44-61.

#### 〈雑誌論文〉

恒吉僚子 (単著) 「PISAをめぐる諸外国の社会的文脈と日本への示唆」(特集 I PISA型学力を問う 2) 『教育』2011年, 6月号: 13-20.

恒吉僚子 (単著) 「比較教育フィールドワークの困難性と可能性」『社会と調査』社会調査協会(国際比較調査の困難性と可能性特集号) 2011年9月, 7号: 51-57.

Tsuneoyoshi, Ryoko (単著) “Three Frameworks on

Multicultural Japan: Towards a More Inclusive Understanding.” *Multicultural Education Review* Vol. 3, No. 2 (KAME, Korean Association of Multicultural Education), 2011, pp.125-156.

#### 〈事典他〉

「多文化教育」「留学」「帰国子女」『現代社会学事典』弘文堂, 2012年。

「異文化理解教育」『社会調査事典』丸善出版, 2012年。

「スタンダードベースの学校改革」「総合学校改革」「アイデンティティ」「マイノリティ教育」「質的調査」『比較教育学事典』日本教育学会, 東信堂, 2012年。

「国際的に見た日本の学校行事の意義」『道徳と特別活動』(特集 学校行事) Vol.2, 2012年, 文溪堂。

#### 〈招待発表〉

2011年5月 “Educating for Multicultural Coexistence in Japan: Towards a More Inclusive Framework,” keynote speech for the annual meetings of the Korean Association for Multicultural Education, Jeonju, Korea.

### 橋 本 鉦 市 (教授)

#### 〈著書〉

橋本鉦市 (分担執筆) 「戦前期における『医学博士』の社会的分析」坂井建雄編『日本医学教育史』東北大学出版会, 2012年2月, 345~365頁。

#### 〈雑誌論文〉

橋本鉦市 「中京大学経済学部EXP 学部におけるリーダーシッププログラム」『カレッジマネジメント』173号, 2012年3月, 20~23頁。

橋本鉦市 「高等教育懇談会による『昭和50年代前期計画』の審議過程—抑制政策のロジック・アクター・構造—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第51巻, 2012年3月, 117~134頁。

橋本鉦市 「戦後における大学生論の系譜—「大学生」はどう論じられてきたか—」『家計経済研究』No.91, 家計経済研究所, 2011年7月, 14-21頁。

橋本鉦市 「戦後の高等教育政策をふりかえる」『旧制高等学校記念館第15回夏期教育セミナー 講演記録』松本市教育委員会・旧制高等学校記念館友の会, 2011年4月, 5-40頁。

橋本鉦市 「医師養成政策の変遷—量と質の側面から—」『IDE』No.529, 2011年4月号, 35-41頁。

### 〈報告書など〉

橋本鉦市編『日本的な専門職コンピテンシー抽出と質保証システム構築のための横断的分析』(2009～2011年度科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究最終報告書), 2012年3月, 全236頁。

橋本鉦市「書評 吉川卓治『公立大学の誕生—近代日本の大学と地域』(名古屋大学出版会)『IDE』, No.531, 2011年6月号, 74-75頁。

### 本 田 由 紀 (教授)

#### 〈著書〉

本田由紀(共著),『文系でもわかる統計分析』(須藤康介氏,古市憲寿氏との共著),朝日新聞出版,2012,総頁数251。

本田由紀(単著),『軋む社会—教育・仕事・若者の現在』,河出文庫,2011,総頁数285。

本田由紀(単著),「教育政策論」,玉井金五・佐口和郎編著『現代の社会政策1 戦後社会政策論』,明石書店,2011,pp.179-206。

本田由紀(単著),「労働時間の多様化と生活満足—就労意識の媒介メカニズム」,斎藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会3 流動化のなかの社会意識』,東京大学出版会,2011,pp.127-141。

#### 〈雑誌論文〉

本田由紀(単著),「調査実習の事例報告 東京大学教育学部比較教育社会学コースの「教育社会学調査実習」:「神奈川県公立中学校の生徒と保護者の生活と意識に関する調査」(2009年度)を例として」,『社会と調査』8号,社会調査協会,2012,pp.82-85。

本田由紀(単著),「『大学第一世代』の仕事への移行:期待・結果・コスト」,『東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse教育研究開発センター共同研究 社会科学分野の大学生に関する調査報告書』研究所報64,2012,pp.18-28

本田由紀(単著),「公正な採用とは:社会の構造変化の中で」,『ヒューマンライツ』287号,2012,pp.13-21

本田由紀(単著),「強固に残るボーダー:自閉化する日本の学校教育に対する社会システム論からの示唆」,『教育学研究』78(2),2011,pp.114-125。

#### 〈その他〉

本田由紀(インタビュー),「震災後の日本社会において,若者はどう学び,どう生きるべきか」,河合塾編『ポスト3.11 変わる学問』朝日新聞出版,

2012, pp.90-99。

本田由紀(対談),「希望の持てる社会づくりへ 生きがいを持って働ける環境を 未来を創る若者たちのために私たちが社会を変えていく」(加藤友康氏との対談),『情報労連Report』29(4),2012,pp.5-9。

本田由紀(記念講演),「子ども・若者の現状と課題」,『子どもの本棚』41(1),2012,pp.18-24。

本田由紀(対談),「「幸福な若者」っていったい誰だ?:話題作『絶望の国の幸福な若者たち』をめぐる師弟対決(!?)」(古市憲寿氏との対談),『Kotoba』(6),2012,pp.153-157。

本田由紀(単著),「書評 橋本紀子・木村元・小林千枝子・中野新之祐編,『青年の社会的自立と教育 高度成長期日本における地域・学校・家族』,大月書店刊,2011年2月発行,A5判,384頁,本体価格5,800円」,『教育学研究』78(4),2011,pp.472-474。

本田由紀(座談会),「キャッシュ・フォー・ワークが日本の失業を救う?:被災者支援は失業者対策になるのか」(永松伸吾氏,木下武男氏,今野晴貴氏との座談会),『Posse』13号,2011,pp.86-114。

本田由紀(インタビュー),「高齢者に特化した雇用政策は問題 若者が年齢や経歴で差別されない社会へ」,『賃金事情』(2613),2011,pp.14-17。

### 中 村 高 康 (准教授)

#### 〈著書〉

中村高康,「高校準準化と社会階層—日本と韓国に見る高校間格差解消政策の帰結—」石田浩・近藤博之・中尾啓子編『現代の階層社会2 階層と移動の動態』東京大学出版会,2011,pp.139-153。

#### 〈雑誌論文〉

中村高康(単著),「高校生のローカリズムと大学進学—高大接続のもう一つの論点—」,『高等教育研究』第14集,日本高等教育学会,2011,pp.47-61。

#### 〈その他〉

中村高康(単著),「〈能力不安〉の時代」,『UP』465号,東京大学出版会,2011,pp.22-27。

### 生涯学習基盤経営コース

#### 影 浦 映 (教授)

#### 〈著書〉

影浦映(共著),「情報学と語彙」斎藤倫明・石井正

彦編『これからの語彙論』ひつじ書房, 第10章, p. 201-212, 2011.

〈雑誌論文 (査読付)〉

海野敏, 影浦峽, 戸田慎一. 「戦後日本における印刷メディア受容量変化の数量的検証」『日本図書館情報学会誌』第58巻第1号, p.1-17, 2012.

〈雑誌論文 (招待論文)〉

Kyo Kageura, Takeshi Abekawa, Masao Utiyama, Miori Sagara & Eiichiro Sumita. "Has translation gone online and collaborative? An experience from Minna no Hon'yaku," Themes in Translation Studies. 10 (Translation as a Social Activity: Community Translation 2.0), p. 47-72, 2011.

〈国際会議論文 (査読有)〉

Takuma Asaishi and Kyo Kageura. "Comparative analysis of the motivatedness structure of Japanese and English terminologies," 9th International Conference on Terminology and Artificial Intelligence. 8-10 November 2011.

Takeshi Abekawa and Kyo Kageura. "Using seed terms for crawling bilingual terminology lists on the Web," Translating and the Computer 33. London, UK, 17-18 November 2011.

Bin Umino, Kyo Kageura and Shinichi Toda. "The correlation between library circulation and bookstore circulation in Japan: A time series analysis," Asia-Pacific Conference on Library and Information Education and Practice. Putrajaya, Malaysia, 22-24 June 2011.

Kyo Kageura and Takeshi Abekawa. "On the concept of "comprehensiveness" in information services: The case of the online translation aid and hosting service Minna no Hon'yaku," Asia-Pacific Conference on Library and Information Education and Practice. Putrajaya, Malaysia, 22-24 June 2011.

〈国際会議デモ〉

Masao Utiyama, Takeshi Abekawa, Eiichiro Sumita and Kyo Kageura, "A strategic supply of reference resources and lookup environments in online translation hosting site (Demo)," Asialex 2011. Kyoto, Japan, 22-24 August 2011.

〈招待講演〉

Kyo Kageura. "On an infrastructure for online coordinated translation training: Extending the online translation aid system Minna no Hon'yaku (MNH)

for training translators," The First International Conference on Law, Translation and Culture, 28-30 August, 2011, Beijing, China.

Kyo Kageura. "The emerging landscape of translation and the case for an open online translation environment," The First International Conference on Law, Language and Discourse: Multiculturalism, Diversity and Dinamicity, 20-21 August, 2011, Hong Kong, China.

〈その他 (研究業績外)〉

影浦峽『3.11後の放射能「安全」報道を読み解く: 社会情報リテラシー実践講義』現代企画室, 2011. (著書・単著)

影浦峽「安全の語りをめぐって」一ノ瀬正樹・伊東乾・影浦峽・児玉龍彦・島蘭進・中川恵一編著『低線量被曝のモラル』河出書房, 2011. (著書・共著)

影浦峽「『専門家』と『科学者』: 科学的知見の限界を前に」『科学』p.56-62. 2012年1月号. (雑誌論文)

根本 彰 (教授)

〈著書〉

石川徹也, 根本彰, 吉見郁哉 (共編著), 『つながる図書館・博物館・文書館: デジタル化時代の知の基盤づくりへ』, 東京大学出版会, 2011年5月. xvi, 272, 8p.

根本彰 (単著), 「序章 図書館, 博物館, 文書館: その共通基盤と差異」同上, p.1-38.

根本彰 (単著), 「第1章 図書館は何を守ろうとしてきたか」同上, p.41-72.

石川徹也, 根本彰, 吉見郁哉 (共著), 「課題と提言: MLAの共通基盤整備」同上, p.251-272.

根本彰 (単著), 『理想の図書館とは何か: 知の公共性をめぐって』ミネルヴァ書房, 2011年10月, iv, 208, 6p.

根本彰 (編著), 『探究学習と図書館: 調べる学習コンクールの効果』学文社, 2012年3月, 157p.

根本彰 (単著), 「21世紀の図書館の出発点—三陸の被災地を訪ねて」『東日本大震災と図書館』(図書館調査研究レポート No.13) 国立国会図書館, 2012.3, p.290-295.

〈雑誌論文〉

根本彰 (単著), 「図書館での貸出し猶予の意味」『出版ニュース』2011年4月中旬号, 通巻2240号, p.6-9.

安里のり子, アンドリュー・ウェルトハイマー, 根本彰 (共著), 「小説『図書館戦争』と「図書館の自由に関する宣言」の成立」『日本図書館情報学会誌』Vol.57, No.1, March 2011, p.19-32.

根本彰 (単著), 「「図書館制度・経営論」の一事例: 立川市の図書館見直し案をもとに」『図書館雑誌』Vol.105, No.5, 2011, p.275-277.

根本彰 (単著), 「長尾真ほか『書物映像の未来: グーグル化する世界の知の課題とは』(書評)」『図書館界』Vol.63, No.2, 2011, p.112-113.

根本彰 (単著), 「図書館と出版の新しい関係」『出版ニュース』2011年8月上旬号, 通巻2250号, p.12-15.

根本彰 (単著), 「日本図書館協会と専門職養成の今後」『図書館雑誌』Vol.105, No.12, 2011, p.804-806.

松本直樹, 根本彰 (共著), 「公立図書館における事業形成のメカニズム: 6県を対象とした質問紙調査」『生涯学習基盤経営研究』第36号, 2011年度, p.33-47.

#### 〈学会発表〉

浅石卓真, 井田浩之, 金昭英, 根本彰 (共同発表), 「探究型学習における資料利用の実態--「図書館を使った調べる学習コンクール」入賞作品の分析」『2011年度日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱』2011年5月14日, 日本図書館情報学会, 2011, p.19-22.

金昭英, 井田浩之, 浅石卓真, 根本彰 (共同発表), 「学校教育課程における図書館を活用した探究型学習—千葉県袖ヶ浦市の事例分析」『2011年度日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱』2011年5月14日, 日本図書館情報学会, 2011, p.23-26.

Hiroyuki Ida, So-Young Kim, Takuma Asaishi, Akira Nemoto. (共同発表), Evaluation on Inquiry-Based Learning through Libraries -A Case Study on Inquiry-Based Learning Competition in Japan, Asia Pacific Conference on Library & Information Education and Practice: Issues, Challenges and Opportunities 22-24 June 2011. Pullman Lakeside Resort, Putrajaya, Malaysia.

Hiroya Takeuchi, Akira Nemoto, Makiko Miwa, Yuko Yoshida, Eiji Aoyagi, Kenji Koyama, Fukuji Imai. (共同発表), Library And Information Science Examination: A Report On Provisional Implementation In Japan. Asia Pacific Conference on Library & Information Education and Practice: Issues, Challenges

and Opportunities 22-24 June 2011. Pullman Lakeside Resort, Putrajaya, Malaysia.

根本彰 (発表), 「図書館情報学にとってのデジタル化」韓国図書館 情報學會 2011 冬季學術大會基調講演, プサン国立大学, 2011年12月2日, p.37-64.

根本彰 (発表), 「日本人の読書と読書政策を研究するための予備的考察」子どもの読書活動を考える国際シンポジウム ~アメリカ・フランス・ドイツの事例に学ぶ~ 国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部主催, 2012年3月25日.

根本彰 (発表), 「探究学習とカリキュラム・イノベーション」『2011年度東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター年報』2012, p.13-20.

#### 〈新聞記事〉

根本彰 (単著), 「復興へ重要性増す図書館」『読賣新聞』2011年7月18日朝刊文化欄.

#### 牧野 篤 (教授)

##### 〈編集〉

牧野篤 (編)『地域に学び, まちの「自立」を考える—東京大学教育学部社会教育学演習2011年度飯田市社会教育調査実習報告』, 東京大学教育学部社会教育学研究室, 2012年3月

##### 〈論文(日本語)〉

牧野篤「静かなダイナミズムが「まち」を支える—飯田市民館調査から—」科学研究費平成22・23年度補助金(挑戦的萌芽研究: 課題番号22653098)「生涯学習をベースとした領域融合的な実践科学としての「文化工学」の創成」研究報告(研究代表者・牧野篤)『つながり・循環・生成—まちづくりと文化を考える』, pp.37-67, 2012年3月

牧野篤「自治体の再編と生涯学習の課題」科学研究費平成22・23年度補助金(挑戦的萌芽研究: 課題番号22653098)「生涯学習をベースとした領域融合的な実践科学としての「文化工学」の創成」研究報告(研究代表者・牧野篤)『つながり・循環・生成—まちづくりと文化を考える』, pp.7-33, 2012年3月

牧野篤「生きるための「むら」づくり—豊田市過疎地域対策事業「日本再発進! 若者よ田舎をめざそうプロジェクト実施報告」科学研究費平成22・23年度補助金(挑戦的萌芽研究: 課題番号22653098)「生涯学習をベースとした領域融合的

な実践科学としての「文化工学」の創成」研究報告（研究代表者・牧野篤）『つながり・循環・生成—まちづくりと文化を考える』, pp.131-234, 2012年3月

牧野篤「大学教員の「留学生」体験—中国人留学生受け入れ事業の同時代史として—」日本教育学会特別課題研究委員会「東アジアの教育—その歴史と現在—」研究会『東アジアの教育—その歴史と現在—』, pp.4-15, 2011年8月

牧野篤「つながりが人を救う—「人生リバイバルプログラム」実施報告」東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室『学習社会基盤研究・調査モノグラフ3』, 安田節之と共著, 担当部分「はじめに」p.1・「第1部「人生リバイバルプログラム」実施報告」pp.3-115, 「おわりに」pp.191-193, 2012年3月

#### 〈論文（中国語）〉

牧野篤「日本終身学習政策的特徴と動態平衡過程の社区—基層自治組織変革と住民学習」『教育科学』第28巻第1期（総第127期）, pp.75-82, 2012年2月

牧野篤「日本終身学習政策的特徴と地方自治的变化」台北市政府教育局『台北市学习型城市願景国際研討会【第四場論文発表】』, pp.587-603, 2011年12月

牧野篤「知識分配模式的転変和生涯学習」華中師範大学『中外教育交流学術研討会論文集』, pp.377-386, 2011年8月

牧野篤「学習：人和社会的生存方式」『河北師範大学学报』第13巻第12期, pp.11-19, 2011年12月

#### 〈論文（英語）〉

MAKINO, Atsushi, Evolution of Inhabitants' Autonomy and Future Tasks of Lifelong Learning in Japan, 台北市政府教育局『台北市学习型城市願景国際研討会【第四場論文発表】』, pp.604-628, 2011年12月

#### 〈エッセイ・報告その他〉

牧野篤「特別課題研究Ⅲ 東アジアの教育—その歴史と現在—」日本教育学会『教育学研究』第79巻第1号, pp.61-71（うち「1. 本特別課題研究の趣旨」[pp.61-62]）, 2012年3月

牧野篤「プロジェクト展開志向型のまちづくりへ—本研究の課題／序に代えて—」科学研究費平成22・23年度補助金（挑戦的萌芽研究：課題番号22653098）「生涯学習をベースとした領域融合的な実践科学としての「文化工学」の創成」研究報

告（研究代表者・牧野篤）『つながり・循環・生成—まちづくりと文化を考える』, pp.1-4, 2012年3月

牧野篤「基調講演「希望の高齢社会に向けて」～私たちがすべきこと・できること～」石川県新生活運動協議会『暮らしの輪』第101号, pp.2-3, 2012年3月

牧野篤「人に学び、まちの「自立」を考える」東京大学教育学部社会教育学研究室『地域に学び、まちの「自立」を考える—東京大学教育学部社会教育学演習2011年度飯田市社会教育調査実習報告』, pp.i-iii, 2012年3月

牧野篤「「必要」の分配から「関係」の生成へ—社会教育・生涯学習から見た企業—」日本産業教育学会『産業教育学研究』第42巻第1号, pp.20-22, 2012年1月

牧野篤「自由研究発表 第12室 「地域・地域問題」」日本社会教育学会『学会通信』No.201, p.12, 2011年12月

牧野篤「留学生が日本で学ぶことの議論—日本教育学会特別課題研究「東アジアの教育—その歴史と現在—」の趣旨と経緯」日本教育学会特別課題研究委員会「東アジアの教育—その歴史と現在—」研究会『東アジアの教育—その歴史と現在—』, pp.1-4, 2011年8月

牧野篤「報告Ⅱ「ESDと人の自己認識をめぐる社会教育の課題」」日本社会教育学会六月集会『研究報告要旨』, pp.6-7, 2011年6月

牧野篤「システムからプロセスへ—市民性教育と生涯学習—」東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター『2010年度 年報』, pp.37-45, 2011年5月

#### 〈学会発表・シンポジウム発表など〉

牧野篤「「必要」の分配から「関係」の生成へ—社会教育・生涯学習から見た企業—」日本産業教育学会第52回大会シンポジウム「転換期の企業内教育」, 宇都宮大学, 2011年10月22日

牧野篤「「分配」から「生成」へ—〈学び〉のプラットフォームとしての生涯学習行政—」文部科学省中央教育審議会教育振興基本計画部会有識者ヒアリング, 学士会館, 2011年10月20日

牧野篤「大学研究室のかかわる地域プロジェクトを通して—実習・学習・実践—」日本社会教育学会第58回大会シンポジウム「大学と地域を結ぶ—社会教育の新たなフロンティア—」, 日本女子大学,

2011年9月16日

牧野篤「豊田市の都市内分権と地域づくり」日本社会教育学会東海・北陸地区六月集会「地域自治・住民自治と社会教育実践(その2)」,名古屋大学, 2011年6月18日

牧野篤「ESDと人の自己認識をめぐる社会教育の課題」日本社会教育学会六月集会・プロジェクト研究「社会教育としてのESD」,明治大学, 2011年6月4日

#### 〈学会発表・シンポジウム発表など(国外)〉

牧野篤「知識分配模式的転変和生涯学習」中外教育交流国際学術研討会—推進教育国際化進程: 国際視野與探索創新, 中国華中師範大学・漢口学院, 2011年8月17日~21日

牧野篤「社会知識分配模式的転変和“新教育”の可能性」中国新教育2011国際高峰论坛「守望我們的田野」, 中国常州市湖塘橋中心小学校教育集团, 2011年7月9日~11日

牧野篤「日本終身学習政策的特徴和地方自治的变化」台北市政府教育局・台北市立図書館・教育部「台北市學習型城市願景國際研討会」, 台湾台北市立図書館國際會議厅, 2011年12月15日~16日

### 李 正 連 (准教授)

#### 〈著書〉

李正連「韓国における草の根の地域共同体運動とソーシャル・キャピタル—清州・清原地域の事例を中心に—」松田武雄(編)『社会教育・生涯学習の再編とソーシャル・キャピタル』大学教育出版, 2012年3月, pp.146-163.

#### 〈論文〉

小林文人・李正連・上田孝典「東アジア社会教育における研究・交流の歩みと新しい地平をさぐる—総論—」東京・沖縄・東アジア社会教育研究会(TOFAFEC)『東アジア社会教育研究』第16号, 2011年9月, pp.16-18, 21-23, 27-28.

李正連「일본의 사회교육과 지역자치-이이다시의 공민관 활동을 중심으로—(日本の社会教育と地域自治—飯田市の公民館活動を中心に—)」韓国平生教育總連合會・始興市『동아시아, 지역에서 평생교육을 말하다(東アジア, 地域から平生教育を語る)』2011年10月, pp.19-37. (韓国語)

李正連「韓国終身教育振興政策的現況与課題—以首爾市生涯學習城市建設計畫為例—」台北市政府教育局『台北市學習型城市願景國際研討會會議手

冊』, 2011年12月, pp.639-652. (中国語)

李正連「植民地朝鮮における実業教育と朝鮮民衆」名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属生涯学習・キャリア教育研究センター『生涯学習・キャリア教育研究』第8号, 2012年3月, pp.39-51.

#### 〈翻訳〉

李正連「改めて考える多文化教育と文解教育」(李智恵[著])東京・沖縄・東アジア社会教育研究会(TOFAFEC)『東アジア社会教育研究』第16号, 2011年9月, pp.145-156.

李正連「書評: 小林文人・伊藤長和・梁炳賛『日本の社会教育・生涯学習~草の根の住民自治と文化創造に向けて~』」(崔一先[著])『日本公民館学会年報』第8号, 2011年11月, pp.150-152.

#### 〈報告書〉

李正連「韓国忠北地域における官民協働の女性就業支援と地域の活性化」独立行政法人国立女性教育会館『韓国における女性への起業支援と地域の活性化—韓国調査報告書—』2012年3月, pp.25-39.

李正連「内灘町公民館の現状と課題」『つながり・循環・生成—まちづくりと文化を考える—』(科学研究費平成22・23年度補助金挑戦的萌芽研究「生涯学習をベースとした領域融合的な実践科学としての『文化工学』の創成」研究報告書(研究代表者: 牧野篤)), 2012年3月, pp.275-284.

#### 〈学会及び国際シンポジウム発表など〉

李正連「일본의 사회교육과 지역자치-이이다시의 공민관 활동을 중심으로—(日本の社会教育と地域自治—飯田市の公民館活動を中心に—)」韓国平生教育總連合會・始興市共催の東アジア平生教育シンポジウム『동아시아, 지역에서 평생교육을 말하다(東アジア, 地域から平生教育を語る)』2011年10月28日(韓国, 始興市庁)

牧野篤・李正連・新藤浩伸・荻野亮吾・馬麗華・古壕典洋・歌川光一・満都拉・中村由香「基層住民組織の変容と公民館の役割—飯田市の公民館・分館活動の調査報告(1), (2)—」公民館学会研究大会, 2011年12月5日(東北福祉大学)

李正連「韓国終身教育振興政策的現況与課題—以首爾市生涯學習城市建設計畫為例—」台北市政府教育局主催「台北市學習型城市願景國際研討會」, 2011年12月16日(台湾, 台北市立図書館)

#### 〈その他〉

李正連「本づくりで広がる日韓社会教育交流—『日

本の社会教育・生涯学習』の韓国出版の経緯とその意義』『月刊社会教育』国土社，2011年4月，pp.80-85。

李正連「초고령사회의 도래와 일본 평생학습정책의 동향（超高齢社会の到来と日本の生涯学習政策の動向）」『평생교육진흥원뉴스레터（平生教育振興院ニュースレター）』第33号，2011年11月。（韓国語）（<http://www.nile.or.kr/contents/contents.jsp?bkind=club&bcode=3120&bmode=view&category=trend&idx=52&pageNo=1>）

### 新藤浩伸（講師）

#### 〈著書（共著）〉

新藤浩伸「自己表現・文化をつくる学び」社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第8版』エイデル研究所，2011，pp.692-714。

#### 〈雑誌論文〉

新藤浩伸，「博物館批判の論点に関する一考察：文化学習基盤としての博物館に向けて」『生涯学習基盤経営研究』第36号，2012，pp.17-31。

#### 〈学会発表〉

牧野篤，李正連，新藤浩伸，荻野亮吾，馬麗華，古壕典洋，歌川光一，満都拉，中村由香「基層住民組織の変容と公民館の役割：飯田市の公民館・分館活動の調査報告（1）（2）」日本公民館学会研究大会，2011年12月（東北福祉大学）

新藤浩伸「公共ホールの公共性および教育機能に関する考察：日比谷公会堂の事例から」日本文化政策学会研究大会，2011年12月（早稲田大学）

#### 〈報告書〉

新藤浩伸「小布施のまちづくりにみる地方都市の文化創造のあり方—行政，図書館，まちづくり実践者へのヒアリングから—」牧野篤研究代表『つながり・循環・生成：まちづくりと文化を考える（科学研究費補助金挑戦的萌芽研究「生涯学習をベースとした領域融合的な実践科学としての「文化工学」の創成」研究報告）』2012，pp.237-271。

新藤浩伸「結び」『地域に学び，まちの「自立」を考える 東京大学教育学部社会教育学演習2011年度飯田市社会教育調査実習報告』東京大学教育学部社会教育学研究室，2012，pp.174-175。

#### 〈雑誌記事〉

萩原 建次郎，新藤浩伸「大切にしたい循環型の地域社会を育む公民館的機能：西東京市の公民館見

直し計画をめぐる現状と課題』『月刊社会教育』56(3)，国土社，2012，pp.61-68。

新藤浩伸「音楽をつくりだす人々：次世代につなぎ，深めていくために」、『音楽文化の創造：cmc』財団法人音楽文化創造，第62号，2011，pp.16-18。

#### 〈その他〉

新藤浩伸「公民館は西東京の財産」『西東京市公民館だより』2012年1月，p.4。

新藤浩伸「大田堯先生の映画「かすかな火」上映会に参加して」『都留文科大学地域交流センター通信』第20号，2011年12月，p.35。

新藤浩伸「被災者からのお便り」はこべの会『月刊はこべ』第410号，2011年6月，p.45。

### 荻野亮吾（特任助教）

#### 〈著書・共著〉

荻野亮吾「生涯学習に関する社会理論：ポストモダンを超えて」立田慶裕・井上豊久・岩崎久美子・金藤ふゆ子・佐藤智子・荻野亮吾『生涯学習の理論：新たなパースペクティブ』福村出版，2011年，pp.69-87。

荻野亮吾「生涯学習へのナラティブ・アプローチ」立田慶裕・井上豊久・岩崎久美子・金藤ふゆ子・佐藤智子・荻野亮吾『生涯学習の理論：新たなパースペクティブ』福村出版，2011年，pp.146-164。

#### 〈翻訳書・共訳〉

荻野亮吾「教育と健康」OECD・CERI編，矢野裕俊監訳『教育と健康・社会的関与：学習の社会的成果を検証する』明石書店，2011年，pp.137-218。

#### 〈雑誌論文等〉

荻野亮吾（単著）「社会的ネットワークの形成に中間集団が果たす役割：JGSS-2003を用いた分析」『日本生涯教育学会年報』第32号，2011年，pp.125-141。

荻野亮吾（単著）「公民館職員の「専門性」へのナラティブ・アプローチ」『日本公民館学会年報』第8号，2011年，pp.40-50。

荻野亮吾（単著）『「やねだん」の取り組み：鹿屋市串良町柳谷集落における地域づくり」「上久堅における地域づくり：長谷部三弘氏の活動から」牧野篤（研究代表）『つながり・循環・生成：まちづくりと文化を考える』（平成22～23年度科学研究費補助金挑戦的萌芽研究「生涯学習をベースとした領域融合的な実践科学としての「文化工

学」の創成」研究報告書) 2012年, pp.285-298.

#### 〈学会発表等〉

荻野亮吾「社会教育とESDからの問いかけ：教育実践研究への寄与と“生涯学習社会”への展望」(コメンテーター) 2011年度日本社会教育学会 6月集会, 明治大学, 2011年 6月。

佐藤智子・荻野亮吾「シティズンシップのためのカリキュラム形成：地域を基盤とした教育経営の視点から」日本教育経営学会第51回大会, 日本大学, 2011年 6月。

牧野篤・李正連・新藤浩伸・荻野亮吾・馬麗華・古塚典洋・歌川光一・満都拉・中村由香「基層住民組織の変容と公民館の役割：飯田市の公民館・分館活動の調査報告(1)(2)」日本公民館学会第10回研究大会, 東北福祉大学, 2011年12月。

#### 〈その他〉

荻野亮吾・佐藤智子・馬麗華・古塚典洋・満都拉「公民館研究の動向」『日本公民館学会年報』第8号, 2011年, pp.157-162.

### 大学経営・政策コース

山本 清(教授)

#### 〈著書〉

『公会計小辞典』共編著 2011.4. ぎょうせい

#### 〈英文論文〉

Usefulness of Accrual Information in Non-mandatory Environment: the case of Japanese Local Government with Kobayashi et al.2011.6. 13<sup>th</sup>, CIGAR Conference (Ghent)

#### 〈和文論文〉

「公会計制度改革と政府経営(下)」(単著) 2011.4.『会計と監査』第62巻第4号 pp.14-20.

「公会計制度改革を成功させるには何が必要か？」(単著) 2011.7.『会計と監査』第62巻第7号 pp.13-19.

「研究成果を政策形成に生かす①～⑦」(単著) 2011.9.「やさしい経済学」日本経済新聞社. 9.26～10.4.

「行政改革の理論と実務」(単著) 2012.3.『季刊行政管理研究』No.137, pp.1-3.

「財務面からみた大学の経営行動－国立大学法人の第一期の分析－」(単著) 2012.3.『大学財務経営研究』第8号 pp.39-50.

「アカウンタビリティ論の展開と公会計」(単著) 2012.3.『公会計研究』第13巻第2号 pp.47-64.

#### 〈学会報告等〉

「財務面から見た大学の経営行動」2011.5.29 日本高等教育学会第14回大会(名城大学)

「アカウンタビリティ論の展開と公会計」2011.9.4. 国際公会計学会第14回大会(名城大学)

「公的部門の発生主義会計適用の効果－自治体調査分析から－」2011.9.18. 日本会計研究学会第70回大会(久留米大学)

Public Sector Accounting Reform in Japan in an international perspective Oct. 26. 2011 International Seminar in Faculty of Economics, The University of Bologna, Italy.

「経済・社会政策における合理的政策形成とその課題」2011.12.5. 城西大学経済学研究科特別講義

### 小方直幸(准教授)

#### 〈著書〉

小方直幸 2011「アカデミック・キャリア」有本章編『変貌する日本の大学教授職』玉川大学出版部, pp.99-108.

#### 〈雑誌論文〉

小方直幸 2011「大学生の学力と仕事の遂行能力」『日本労働研究雑誌』, No.614, 労働政策研究・研修機構, pp.28-38.

小方直幸 2011「企業からみた大学・大学院教育」『IDE現代の高等教育』, No.531, IDE大学協会, pp.55-61.

小方直幸 2012「大学教員の授業への構え－「自営モデル」と「組織モデル」からの検証－」『大学経営政策研究』, 第2号, 東京大学大学院教育学研究科, pp.23-40.

両角亜希子・小方直幸 2012「大学の経営と事務組織－ガバナンス, 人事制度, 組織風土の影響」『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 第51巻, pp.159-174.

### 両角亜希子(講師)

#### 〈論文等〉

両角亜希子(単著)「私立大学の経営戦略④：アメリカの大学職員」社団法人私学経営研究会『私学経営』2011年5月 No.435 38-45頁

両角亜希子(単著)「私立大学の経営戦略⑤：日本の大学職員－将来像とその規定要因」社団法人私学経営研究会『私学経営』2011年5月 No.435 46-54頁

- ・両角亜希子(単著)「大学のグローバル人材育成はどこまで進んでいるか」リクルート『カレッジマネジメント』2011年5-6月, 168号, 14-25頁
- ・両角亜希子(単著)「学校法人会計基準の課題—理念を維持し制度の改善を」『教育学術新聞 アルカディア学報』2011年6月15日, 2頁
- ・両角亜希子(単著)「大学生の生活・学習と経済状況」家計経済研究所『季刊 家計経済研究』2011年Summer, No.91, 22-32頁
- ・両角亜希子(単著)「国際認証を通じたグローバル人材の養成(事例:名古屋商科大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2011年7-8月, 169号, 28-31頁
- ・両角亜希子(単著)「教育研究のさらなる質向上と「ハブ大学構想」(事例:関西大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2011年9-10月, 170号, 38-41頁
- ・両角亜希子(単著)「大学理事会の役割を明確に—アメリカとの比較から」『教育学術新聞 アルカディア学報』2011年10月12日, 2頁
- ・両角亜希子(単著)「大学経営・政策コースの取り組み/東京大学, IDE大学協会『IDE現代の高等教育』No.535, 2011年11月号, 24-28頁
- ・両角亜希子(単著)「学長直接選挙廃止の動向—韓国における大学の構造改革」『アルカディア学報』468, 2012年1月18日, 2頁
- ・両角亜希子(単著)「認証評価と大学独自戦略の併存に向けて(事例:関西学院大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2012年1-2月号, 172号, 22-25頁
- ・両角亜希子・小方直幸 2012「大学の経営と事務組織—ガバナンス, 人事制度, 組織風土の影響」『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 第51巻, pp.159-174.
- ・両角亜希子(単著)「5年一貫制大学院でのグローバルリーダー養成:京都大学大学院思修館(構想中)」リクルート『カレッジマネジメント』2012年3-4月号, 173号, 24-27頁
- ・両角亜希子(単著)「韓国における私立大学の自律性—「経営不良大学」をめぐる政策動向を中心に—」『大学経営政策研究』2012年3月, 第2号, 41-63頁

#### 〈口頭発表〉

- ・両角亜希子(講演)「広島修道大学の特徴と課題—他大学との比較から」広島修道大学 第2回F

D・SD研修会(2011年6月23日)

- ・両角亜希子(講演)「大学生の自律的学習—東大CRUMP調査からの検討—」第43回IDE大学セミナー(IDE大学協会中国・四国支部), 2011年8月30日, ホテルグランヴィア広島
- ・両角亜希子(講演)「大学経営人材としての職員の役割」広島大学高等教育研究開発センター第39回研究員集会(2011年11月18日)

#### 〈その他〉

- ・「グローバル4大学 トップ座談会 4大学が特徴, 個性を活かしながら, 日本の大学のグローバル化を切り開く」(座談会の司会および原稿執筆)リクルート『カレッジマネジメント』2011年5-6月, 168号, 6-13頁
- ・日本私立大学協会附置私学高等教育研究所『私立大学の中長期経営システムに関する実態調査(速報)』2012年3月(私大マネジメント改革プロジェクト, 調査責任者として執筆)

#### 教育心理学コース

##### 秋田 喜代美(教授)

##### 〈著書〉

- 秋田喜代美『保育のみらい』ひかりのくに 2011 pp.127
- 秋田喜代美『くらしの素顔—保育の場の子どもたち』フレーベル館 2011 pp.151.
- 秋田喜代美「これからの園内研修:育ち合う組織に向けて本実践から学ぶこと」秋田喜代美(監修)松山益代(編)『参加型園内研修のすすめ—学び合いの「場づくり」』ぎょうせい 2011 pp.94-104.
- 秋田喜代美「保育の心理学とは」pp.1-6, 「保育と心理学」pp.7-22. 秋田喜代美・庄司順一(編集責任)新保育士養成講座編纂委員会(編)『新保育士養成講座第6巻 保育の心理学』全国社会福祉協議会 2011 pp.229.
- 秋田喜代美「学校生活」高橋恵子他(編)『発達科学入門(2) 胎児期—児童期』東京大学出版会 2012 pp.239-253.
- 秋田喜代美「学び続ける教師と学校文化のために」武田明典・村瀬公胤・嶋崎政男(編)『現場で役立つ教育の最新事情』北樹出版 2012 pp.112-114.
- 秋田喜代美「学習意欲を引き出す」鳥飼久美子・寺崎昌男(監修)立教学院英語教育研究会

- (編)『英語の一貫教育へ向けて』東信堂 2012 pp.244-278.
- 坂本篤史・秋田喜代美「教師」金井壽宏・楠見孝(編)『実践知: エキスパートの知性』有斐閣 2012 pp.174-193.
- Akita, K. 'Study on Early Childhood Education and Care and Lesson Study'. National Association for the Study of Educational Methods(Ed.) *Lesson Study in Japan*. Keisuisya. 2011 pp.421-432.
- 〈学会誌論文〉
- Akita, K. "Recent Curriculum Reform in Japan: The Future of Everyday-Life-Oriented Curriculum" *International Journal of Early Childhood Education*, 17(1), 33-43. 2011
- 秋田喜代美・佐川早季子 「保育の質に関する縦断研究の展望」『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 51, 217-234. 2012
- 一前春子・秋田喜代美・増田まゆみ・高辻千恵「幼小連携に対する視点の変化—「幼児の教育」の記事の分析から」『国際幼児教育研究』, 19, 29-38. 2011
- 一前春子・秋田喜代美「取組段階の観点からみた地方自治体の幼小連携体制づくり」『乳幼児教育学研究』, 20, 13-26. 2011
- 芦田宏・門田理世・野口隆子・箕輪潤子・秋田喜代美・鈴木正敏・小田豊・淀川裕美 「日本版S I C Sを用いた園内研修の現状と課題—幼稚園と保育所への質問紙調査を通して—」『兵庫県立大学環境人間学部研究報告』, 14, 31-40. 2011
- 〈一般雑誌論文〉
- 秋田喜代美「泣きに見る育ち」『幼児の教育』, 110(5), 50-53. 2011
- 秋田喜代美「帰りの会の振り返りとけじめ」『幼児の教育』, 110(6), 50-53. 2011
- 秋田喜代美「豊かな園のくらしにむけて」『幼児の教育』, 111(2), 48-51. 2011
- 秋田喜代美「子ども・子育て新システムの動向」『保育とカリキュラム』60(5), 56-57. 2011
- 秋田喜代美「震災後の保育とこれから」『保育とカリキュラム』60(6), 58-59. 2011
- 秋田喜代美「世界の保育から考える: 子ども子育て新システムが子どもための真の公的投資になるために」『保育とカリキュラム』, 60(8), p60-61. 2011
- 秋田喜代美「子ども子育て新システム: その光と影」『保育とカリキュラム』, 60(19), 60-62. 2011
- 秋田喜代美「地域の文化的リテラシー格差を超える自治体力を」『判例地方自治』, 340. P10. 2011
- 秋田喜代美「熟練教師の認め合う手立てに学ぶ」『授業力&学級統率力』Vol. 14, P9. 2011
- 秋田喜代美「聴きあう関係から育つ対話力: 教室の言葉の質を問う」『国語教育』, 737, 8-10. 2011
- 秋田喜代美「子どもにとっての心理的な時間」『日本保育協会保育科学研究所だより』, 6, 3. 2011
- 秋田喜代美「教科書をどう生かすか—教科書の可能性と限界をふまえて」『指導と評価』57(10), 4-7. 2011
- 秋田喜代美「教育学と東大出版会の60年」『UP』, 468, 1-7. 2011
- 秋田喜代美「「幼児」から「児童」へ—子どもの声から捉える幼小移行」『児童心理』, 948, 12-19. 2012
- 秋田喜代美「授業研究の充実について」『兵庫教育』, 728, 4-9. 2012
- 秋田喜代美「言語活動の熟達に向けて」「知識が転移するための条件」『教育研究』, 1314, 22-26, 2012,
- 秋田喜代美「幼児期の教育の真価」『幼稚園じほう』, 30(12), 5-11.2012
- 秋田喜代美・村山哲哉「対談 教師の専門性と授業研究の在り方」『初等教育資料』, 876, 2-5. 2011.7. 2011
- 秋田喜代美・増田まゆみ「対談 子どもの育ちと保育を振り返る」『保育の友』60(3), 18-24. 2011.
- 秋田喜代美「山本和美(著) 幼児教育の質的向上に関する研究」(図書紹介)『教育学研究』, 78(3), 39-40. 2011
- 〈学会等招待講演〉
- Akita, K. "Educational Reform in Japan" Graduate School of Education, Peking University 2011.5.6.
- Akita, K. "Learning Professional Community for Quality and Equality" Singapore Academy of Principals 2011.7.3
- Akita, K. "Research Trends in Japanese Lesson Study: Potential Issues for the Future of Lesson Study" World Association of Lesson Studies OPEN FORUM 2011.11.27.
- 秋田喜代美「乳幼児期の表現: 音を楽しむ経験としての音楽と表現」全国大学音楽教育学会27回全国大会基調講演 2011.9.2

秋田喜代美「日本の授業研究と教師の成長：教師の発達を支える文化的活動システムとアイデンティティ形成」日本女子大学教職開発センター国際フォーラム「今後の教員養成と現職教育のあり方を考える」2011.11.29

#### 〈学会発表〉

一前春子・秋田喜代美「持続可能な幼小連携の分析—自治体の機能」日本保育学会第64回大会発表論文集, 562. 2011

秋田喜代美「国際的な保育の実情から考える保育における「知」のありかた」「質の高い保育を考える(1)保育における「知」とは何か」話題提供者日本保育学会国際交流委員会大会実行委員会・OMEP共催企画シンポジウム 日本保育学会第64回大会発表論文集, pp.30-31. 2011

門田理世・秋田喜代美・小田豊・芦田宏・鈴木正敏・野口隆子・淀川裕美「保育の質の評価と改善に向けた継続的な園内研修の実践：S保育所における園内研修の汎用性と継続性の視点から」日本保育学会第64回大会発表論文集, 418. 2011

一前春子・秋田喜代美「幼小連携に対する自治体担当者の認識(1)幼小連携に関する体制・取り組み要因に注目して」「幼小連携に対する自治体担当者の認識(2)連携サポート体制構築の実施と課題の分析」日本教育心理学会第53回総会発表論文集 394-395. 2011

芦田宏・門田理世・野口隆子・箕輪潤子・秋田喜代美・鈴木正敏・小田豊「保育の質向上を支援する自己評価法—質問紙調査に見るその効果」日本教育方法学会第47回大会発表要旨集, 116. 2011

一前春子・秋田喜代美「自治体における接続・スタートカリキュラムの比較分析」日本乳幼児教育学会第21回大会発表論文集, 136-137. 2011.

門田理世・箕輪潤子・秋田喜代美・芦田宏・鈴木正敏・野口隆子・小田豊「地方自治体の規模と保育の質向上の取り組みに関する検討(1)保育の質を向上させる研修のあり方,(2)保育の質評価についての実態—」日本乳幼児教育学会第21回大会発表論文集 132-135. 2011.

秋田喜代美「これからの乳幼児教育を考える」日本乳幼児教育学会大会企画シンポジウム話題提供者, P18-19. 2011

中坪史典・秋田喜代美・砂上史子・増田時枝・箕輪潤子「保育者の成長を支える保育カンファレンスに対する認識の分析—談話に対する評定に注目し

て—」日本発達心理学会第23回大会発表論文集, 641. 2012.

#### 〈報告書〉

秋田喜代美『幼児期から児童期への教育—子ども・保護者・教師の経験から考える幼小文化間移行』東アジア子ども学交流プログラム報告書 p.10-15.

秋田喜代美(代表)『保育の質評価と質モニタリング:環太平洋地域および東アジア諸国の保育の質評価に関する政策と研究動向』「保育の質が幼児・児童の発達に与える影響の検討」(課題番号23243079)平成23年度科学研究費補助金(基盤研究A) pp.139

網野武博, 増田まゆみ, 秋田喜代美, 尾木まり, 高辻千恵, 一前春子「保育所, 幼稚園, 小学校の連携等に関する現状分析及び今後の展望に関する研究(Ⅱ)」『東京家政大学生生活科学研究報告』34, 1-14, 2011.

#### 〈DVD教材 日本語翻訳監修〉

秋田喜代美・一前春子(監修)子どもの発達シリーズ乳児版『第1巻 身体的発達』『第2巻 認知発達と言語発達』『第3巻 社会性と情動の発達』幼児版『第1巻 身体的発達』『第2巻 認知発達と言語発達』『第3巻 社会性と情動の発達』秋田喜代美・一前春子(監修)『子どもの道徳性の発達：理論・段階・影響』『幼児期の行動の導き方—しつけと子育てをうまく計画するために—』

#### 岡田 猛(教授)

##### 〈著書〉

横地早和子・岡田猛(2012). アートにかかわるエキスパート：芸術家 金井壽宏・楠見孝(編)実践知：エキスパートの知性. 267-292, 有斐閣

##### 〈学会誌論文〉

小澤基弘・岡田猛(2012). 教育養成学部の絵画教育における省察の実践に関する研究 I—ドローイングを主題とした新しい授業実践とその分析枠組みの提案— 大学美術教育学誌, 44, 207-213.

岡田猛(2011). 芸術表現教育のための基礎研究と実践研究—心理学・認知科学からのアプローチ NATURE INTERFACE, 52, 08-09. (依頼論文)

##### 〈招待講演等〉

“The role of inspiration in artistic creation” Special colloquium talk. Rutgers, University, USA., 2012, 3, 7, Invited speaker.

“The role of inspiration in artistic creation” Special

colloquium talk. Western Oregon University, USA., 2012, 2, 28, Invited speaker.

“Analogical modification in the creation of contemporary art” Special colloquium talk. Western Oregon University, USA., 2012, 2, 27, Invited speaker.

ワークショップ「創造性研究の多面的アプローチ」  
話題提供者 日本心理学会第75回大会 2011年9月17日 日本大学文理学部

第8回人間情報学会講演会「芸術の表現教育におけるインスピレーションの役割」講演者 2011年9月6日 東京大学山上会館

“The role of inspiration in artistic creation.” Special Colloquium talk. Learning Research and Development Center, University of Pittsburgh, USA., 2011, 8, 17, Invited speaker.

#### 佐々木 正 人 (教授)

##### 〈著書等〉

佐々木正人・古山宣洋・三嶋博之(監訳)『生態学的知覚システム』東京大学出版会 2011 430p.

子安増生・二宮克美編『キーワードコレクション 認知心理学』新曜社 2011年(アフォーダンス, ダイナミック・タッチの項目担当)

土本典昭・鈴木一誌編『全貌フレデリック・ワイズマン』岩波書店 2011年(フレデリック・ワイズマンの視覚担当)

##### 〈学会誌論文〉

佐々木正人「空書について」(第五回独創賞受賞記念論文) 認知心理学研究 2011,8(2), pp.153-164.

Ito, M., Mishima, H. & Sasaki, M. The dynamical stability of visual coupling and knee flexibility in skilled kendama players. *Ecological Psychology*, 23, 2011, pp. 308-332.

佐々木正人 包囲する段差と行為の発達 発達心理学研究 2012 22(4) pp.357-368

##### 〈学会発表〉

佐々木正人「包囲する物・場所と行為の発達」日本発達心理学会23回大会ラウンド・テーブル 2012年3月9日-11日 名古屋国際会議場(細田直哉, 山崎寛恵, 青木洋子と)

##### 〈一般雑誌〉

対談, 隈研吾氏と「都市と建築をつなぐ肌理」世界 2011年7月号 No.819. pp.198-207

#### 南風原 朝 和 (教授)

##### 〈著書〉

南風原朝和(単著), 『臨床心理学をまなぶ7 量的研究法』, 東京大学出版会, 2011, 総頁数223.

##### 〈雑誌論文等〉

南風原朝和(学会チュートリアルセミナー), 「尺度の作成・使用と妥当性の検討」, 『教育心理学年報』第51集, 2012, pp.213-217.

南風原朝和(書評), 「英語教育学体系13 テスティングと評価」, 『英語教育』第60巻第4号, 2011, p.90.

#### 遠 藤 利 彦 (准教授)

##### 〈著書〉

遠藤利彦(編著・分担・単著)(2011). 赤ちゃんのところに引き込まれる(錯覚と発達・赤ちゃんのところに向き合う(錯覚から脱錯覚へ)・生命が芽生えるとき・赤ちゃんが世界と出会うとき・人との関係の中で育つ子ども. 遠藤利彦・佐久間路子・徳田治子・野田淳子(著), 乳幼児のころ: 子育ち・子育ての発達心理学(pp.3-119). 有斐閣.

遠藤利彦(編著・分担・単著)(2011). 異型から心の形象を読む. 鳥居修晃・川上清文・高橋雅延・遠藤利彦(編), 心のかたちの探究: 異型を通して普遍を知る(pp.177-212). 東京大学出版会.

遠藤利彦(分担・単著)(2011). AAI(アダルト・アタッチメント・インタビュー). 加藤敏・神庭重信・中谷陽二・武田雅俊・鹿島晴雄・狩野力八郎・市川宏伸編, 現代精神医学事典, 弘文堂

遠藤利彦(分担・単著)(2011). 絆: 感情と人間同士のつながり・愛着. 無藤隆・子安増生(編), 発達心理学 I (pp.53-60, 211-217). 東京大学出版会.

遠藤利彦(編著・分担・単著)(2012). 「ヒト」と「人」: 生物学的発達論と社会文化的発達論の間. 氏家達夫・遠藤利彦(編), 発達科学ハンドブック5: 社会文化に生きる人間(pp.25-46). 新曜社.

##### 〈学術誌論文〉

森岡正芳・須田治・岩壁茂・茂呂雄二・遠藤利彦(2011). 情動とその表象化. 教育心理学年報, 50, 35-38.

##### 〈報告書・紀要論文等〉

遠藤利彦(2012). 三つの「みる」(観・察・省)のトランアンクルからもう一つの「みる」(看)へ. 日本音楽療法学会関東支部地方大会シンポジウム

記録, 3, 61-77.

遠藤利彦 (2012). 子育て・子育ての基本について考える: アタッチメントと社会性の発達. 子ども学 (甲南女子大学国際子ども学研究センター紀要), 14, 129-156.

#### 〈その他論文・記事等〉

遠藤利彦 (2011). 『双生児による研究』から『双生児の研究』へ. 日本双生児研究学会ニューズレター, 第50号.

遠藤利彦 (2011). 感応し合う関係性から発達は立ち上がる. 有斐閣・書齋の窓, 2011年11月号 (No. 609), 52-56.

#### 〈学会発表〉

石井佑可子・遠藤利彦 ポスター発表: 青年期後期における社会的スキル行使傾向と社会的適応との関連. 日本教育心理学会第53回総会 (北海道立道民活動センター). 2011年7月24日.

遠藤利彦 話題提供: 発達心理学の新しいかたちを占う. 日本青年心理学会第19回大会企画シンポジウム「発達心理学の新しいかたちと青年心理学」(文京学院大学). 2011年11月26日.

遠藤利彦 司会・討論: mind-mindednessをめぐって. 日本心理学会第75回大会小講演「篠原郁子: 母親のmind-mindednessと子どもの心の理解能力の発達: 生後5年間の縦断研究」(日本大学). 2011年9月15日.

遠藤利彦 指定討論: 情動と(の)知: 手綱はいつ引かれるのか: 情動的知性への提言. 日本心理学会第75回大会ワークショップ「情動と(の)知」(日本大学). 2011年9月17日.

遠藤利彦 指定討論: 発達心理学研究の活性化のために. 出版企画委員会企画シンポジウム「発達心理学研究の活性化のための研究方法を模索して」(名古屋国際会議場). 2011年3月9日.

遠藤利彦 指定討論: 情動・社会性発達の視点から. 学会準備委員会企画シンポジウム「学校教育段階における動機づけの発達: 動機づけと社会性のインタラクション」(名古屋国際会議場). 2011年3月9日.

石井佑可子・遠藤利彦 ポスター発表: 青年期の非行傾向にかかわる対人関係スタイル: 対人距離化スキル・メタ認知・アタッチメントスタイルからの検討 (名古屋国際会議場). 2011年3月9日.

遠藤利彦 話題提供: アタッチメントのみではない・情動の制御のみでもない. 自主シンポジウ

ム「実践に役立つ親子関係を捉える視点: アタッチメント概念の生物学的普遍性と文化・文脈的制約を越えて」(名古屋国際会議場). 2011年3月10日.

遠藤利彦 話題提供: 情動制御の発達をめぐる3つの理論的視座. 自主シンポジウム「情動制御の発達: 多面的な視座から」(名古屋国際会議場). 2011年3月10日.

遠藤利彦 指定討論: 情動知性の発達をめぐって. 自主シンポジウム「情動知性: 発達プロローグ」(名古屋国際会議場). 2011年3月11日.

#### 〈講演〉

遠藤利彦 乳幼児期のアタッチメントと社会性の発達. 平成23年度さいたま市幼児教育振興協議会・幼児教育講演 (さいたま市教育研究所). 2011年5月27日.

遠藤利彦 アタッチメント理論に基づく被虐待児の支援. 第5回千葉子どもこのころの医療研究会 (ホテルグリーンタワー幕張). 2011年6月24日.

遠藤利彦 情と知: 「情に対する知」から「情に潜む知」 「情が拓く知」へ. 筑波大学障害科学系プロジェクト研究・講演会・ミニシンポジウム「感情・情動と認知」. 2011年8月23日.

遠藤利彦 乳幼児期における子育て・子育ての心理学: 愛着と社会性の発達を中心に. 徳島県保育事業連合会講演. 2011年8月29日.

遠藤利彦 乳幼児期の子育て・子育てについて考える: 思いやりと自律性の発達を中心に. 第1回・茅ヶ崎・響きあい教育シンポジウム (茅ヶ崎市教育センター). 2011年11月12日.

遠藤利彦 乳児保育の危機を越えて: 「はじめの一步」へのお誘い. 質の高い乳児保育を目指す実践研究会シンポジウム (東京教育専門学校目白本館). 2011年11月27日.

遠藤利彦 子育て・子育ての基本について考える: アタッチメントと子どもの社会性の発達. 第80回「こども学」講演 (甲南女子大学). 2011年12月14日.

遠藤利彦 乳幼児期の子育て・子育てについて考える: 自律性 (自己) と思いやりの発達. 目黒区公立保育園研究会講演. 2012年1月17日.

遠藤利彦 発達臨床的視座から見るアタッチメント: 被虐待児の特質と支援との関連も含め. 平成23年度治療機関・施設専門研修会講演 (子どもの虹情報研修センター). 2012年1月26日.

遠藤利彦 発達臨床的視座から見るアタッチメント。第9回市川小児こころの医療研究会（市川市医師会館）。2012年2月21日。

遠藤利彦 双生児研究の現状と課題：発達心理学の立場から想うこと。東京大学附属中等教育学校・てぶくろの会講演。2012年2月26日。

遠藤利彦 乳幼児発達心理学序論：最新科学から知る赤ちゃんの本当の姿。質の高い乳児保育を目指す実践研究会講演（新宿区保育プラザ）。2012年2月27日。

遠藤利彦 基調講演：発達心理学からみた絵本の役割とこどものそだち。こどもと絵本・デジタル研究会シンポジウム「デジタル時代のこどもと絵本」（小学館一ツ橋センタービル）。2012年3月3日。

## 針 生 悦 子 (准教授)

### 〈著書〉

針生悦子「話し言葉」(pp.283-289)「書き言葉」(pp.361-367) 無藤隆・子安増生(編)「発達心理学I」東京大学出版会。2011年9月。

針生悦子「言語発達研究の課題と方法」(pp.122-135) 岩立志津夫・西野泰広(編)「発達科学ハンドブック2 研究法と尺度」新曜社。2011年11月。

### 〈学術論文〉

Jiang, L. & Haryu, E. Young Chinese-speaking children's understanding of the correspondence between verb meaning and argument structure. In N. Danis, K. Mesh, & H. Sung (Eds.), *Boston University Conference on Language Development 35 Proceedings Supplements* (<http://www.bu.edu/buclid/files/2011/05/35-jiang.pdf>). 2011年4月。

坂本恵子・針生悦子「幼児における新奇な形容詞の解釈」*心理学研究*, 82(1), pp.24-31. 2011年4月。

### 〈学会発表〉

Yamamoto, H. & Haryu, E. Do Japanese 24-month-olds utilize lexical pitch accent for word recognition? *Paper presented at the Biennial Meeting of the Society for Research in Child Development*. Montreal, CA. 2011年4月。

大竹裕香・針生悦子「養育者のIDSにおける“モノ”と“動き”のラベリング」日本心理学会第75回大会発表論文集, p.110. 2011年9月。

針生悦子・梶川祥世「高い音を出すのは大きな物体

より小さな物体か、黒い物体より白い物体か：乳児における視聴覚対応の理解」日本認知科学会第28回大会発表論文集, p.126-129. 2011年9月。

梶川祥世・針生悦子「大小を表す擬音語理解の発達：発声の高さは手がかりとなるのか？」日本発達心理学会第23回大会発表論文集, p.86. 2012年3月。

山本寿子・針生悦子「24ヶ月児におけるピッチ情報に基づいた語彙判断」日本発達心理学会第23回大会発表論文集, p.163. 2012年3月。

### 〈その他〉

針生悦子(招待講演)「前言語期における“言語発達”：音声からことばへの転化を支えているもの」電子情報通信学会技術研究報告(音声), pp.31-34. 2012年3月。

## 臨床心理学コース

### 下 山 晴 彦 (教授)

#### 〈編著書〉

下山晴彦・森田慎一郎・榎本真理子(編著)『学生相談必携GUIDEBOOK—大学と協働して学生を支援する—』金剛出版 2012, 総頁数282

野村俊明・下山晴彦(編著)『精神医療の最前線と心理職への期待』誠信書房 2011 総頁数232  
東京大学理学部学生支援室/下山晴彦(編著)『東大理学部発 学生相談・学生支援の新しいかたち—大学コミュニティで支える学生生活—』岩崎学術出版社 2011 総頁数203

下山晴彦・中嶋義文(監修)『家族のための よくわかる うつ』池田書店 2011 総頁数207

#### 〈分担執筆〉

下山晴彦「近年の大学の変化と学生相談の課題」In 下山晴彦・森田慎一郎・榎本真理子(編著)『学生相談必携GUIDEBOOK—大学と協働して学生を支援する—』金剛出版 2012 pp12-25

野村俊明・下山晴彦「精神科医と臨床心理士の対話」In 野村俊明・下山晴彦(編著)『精神医療の最前線と心理職への期待』誠信書房, 2011 pp196-230

#### 〈雑誌論文〉

下山晴彦「心理療法におけることば—認知行動療法の立場から」In 妙木浩之(編)『心理療法における言葉：臨床言語論1』現代のエスプリ530, 2011, pp27-38.

下山晴彦「認知行動療法とスーパービジョン」臨床心理学, 11(4) 2011, pp617-621.

松丸未来・下山晴彦「学校保健を支える専門職：スクールカウンセラーの役割」小児科臨床, 増刊号, 2011 50-58.

下山晴彦「被災者のトラウマとその癒し」淡青, 25 2011 pp12-13

平野真理・川崎隆・高柳めぐみ・羽澄恵・榎原潤・野津弓起子・下山晴彦「病院集団療法に心理士が参入する際の困難と工夫—デイケア実習での体験から—」東京大学大学院教育学研究科紀要, 35, 2012 pp104-114.

榎原潤・河合輝久・梅垣佑介・下山晴彦「子どもと若者のうつ病へのスティグマに関する検討—サービス・ギャップを埋めるために—」東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 35, 2012 pp80-87.

川崎舞子・高山由貴・向江亮・大上真礼・高岡佑壮・下山晴彦「産業領域のメンタルヘルスケアにおける他職種との連携に向けて(1)—メンタルヘルスケアの現状と援助者の活動領域の概観—」東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 35, 2012 pp 88-95.

向江亮・中野美奈・大上真礼・下山晴彦「産業領域のメンタルヘルスケアにおける他職種との連携に向けて(2)—メンタルヘルスケアの最新動向と心理援助職に求められる役割の考察—」東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 35, 2012 pp96-103.

野津弓起子・能登眸・園部愛子・堤亜美・末木新・下山晴彦「抑うつに関する非機能的認知の発生・維持・修正に関する研究の概観と展望—認知心理学に基づいた認知変容技法の理解と発展を目的として—」東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 35, 2012 pp49-56.

高岡佑壮・藤尾未由希・野中舞子・松田なつみ・下山晴彦「発達障害を有する人への臨床心理学的援助の課題—ライフステージを通じた支援を目指して—」東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 35, 2012 pp65-72.

堤亜美・篤洵るわ・佐藤有利都・下山晴彦「適応指導教室におけるソーシャルスキル向上を目指した心理教育授業の実践的研究」東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 35, 2012 pp73-79.

#### 〈学会講演〉

Haruhiko Shimoyama, (招待講演) How should Japanese

Clinical Psychology Develop in Order to Meet Social Needs Such As Effective Support for Victims of the East Japan Disaster? Group of Trainers Annual Conference of Clinical Psychology in UK, at Exeter, 2012 abstract pp12.

#### 能智正博(教授)

##### 〈著書〉

能智正博(分担), 「発達の質的研究法と実例」, (日本発達心理学会編)『発達科学ハンドブック2: 研究法と尺度』, 新曜社, 2011, (pp.73-83)

能智正博(単著), 『臨床心理学をまなぶ6: 質的研究法』, 東京大学出版会, 2011, 総頁数366.

##### 〈雑誌論文〉

能智正博(単著), 「『被災者の声』はどのように語られるか(1)—ディスコース分析から臨床心理学的実践へ—」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』第35号, 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース, 2012, pp. 148-156.

能智正博(共著), 「二重のライフストーリーを生きる—障がい者のきょうだいの語り合いから見えるもの」(原田満里子氏との共著), 『質的心理学研究』, 第11号, 2012, pp.26-44.

##### 〈その他の業績〉

岩立志津夫・能智正博・村井潤一郎・外山紀子・遠藤利彦・無藤隆(シンポジウム, 話題提供)「発達心理学研究の活性化のための研究方法を模索して」2012年3月 日本発達心理学会第23回大会, 名古屋(論文集pp.142-143).

能智正博(雑誌巻頭言), 「感性を広げる力」, 『質的心理学研究』, 第11号, 2012, p.1.

能智正博(ワークショップ講師), 「教師の実践のまとめ方・生かし方—教師のための質的研究入門」2012年1月 日本学校教育相談学会・第22回全国中央研修会.

能智正博(講習会講師), 「カウンセリング概論」2011年10月 平成23年度警察庁「警察安全相談実務専科」教養.

能智正博(講習会講師), 「質的研究法」2011年9月 日本臨床心理士会臨床心理センター講座10.

能智正博(学会発表), 「ある心理専門職の語りの協働的分析の試みI—単一のテキストから生まれる多様な意味—」2011年9月 日本心理学会第75回大会, 東京(論文集p.1).

石丸径一郎・向後裕美子・金智慧・能智正博(学

会発表), 「ある心理専門職の語りの協働的分析の試みⅡ—ライフストーリーと可能世界の分析—」2011年9月 日本心理学会第75回大会, 東京(論文集p. 2).

北村篤司・綾城初穂・李健實・能智正博(学会発表), 「ある心理専門職の語りの協働的分析の試みⅢ—ポジションと語り方の分析—」2011年9月 日本心理学会第75回大会, 東京(論文集p. 3).

原田満里子・山下麻実・張磊・能智正博(学会発表), 「ある心理専門職の語りの協働的分析の試みⅣ—読み手の声を重ねる分析—」2011年9月 日本心理学会第75回大会, 東京(論文集p. 4).

原田満里子・家島明彦・能智正博・宮内洋・森岡正芳(シンポジウム, 司会), 「語りにおける当事者性(2)—聴き手と語り手の間に生じる「共感」と語りの様相変化—」2011年9月 日本心理学会第75回大会.

能智正博(エッセイ・単著), 「震災と障害者とコミュニティ」, 『えんかれっじ』, 第10号, 2011, p.4

Nochi, M. & Harada, M. (学会発表) "The body as a catalyst in the construction and reconstruction of self-narratives: Analysis of a collaborative auto-ethnography project with a woman with a disabled sibling." 30<sup>th</sup> International Human Science Research Conference. (abstract, p.54), 2011, July. Oxford, UK.

## 高橋美保(准教授)

### 〈雑誌・紀要論文など〉

李健實・鈴木純子・高橋美保(共著) マインドフルネス研究の現状と展望—臨床実践に生かすために 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 35, 2012, 181-190.

高橋美保・鈴木純子(共著) 産業領域におけるメンタルヘルス研修についての研究—実態把握をベースとした教育プログラム開発の試み— 東京大学大学院教育学研究科紀要, 51, 2012, 287-304.

高橋美保(単著) 産業領域における臨床心理学 駒沢学園心理相談センター紀要, 7, 2012, 20-21.

高橋美保・永石晃・楯原真也・山田道行(討論) 第10回座談会—「変容」と「成長」—スーパーヴィジョンが教えてくれたこと 臨床ゼミ 今日これからのスーパーヴィジョン 編集 村瀬嘉代子 臨床心理学, 12(2), 2012, 258-269.

### 〈学会発表〉

Miho Takahashi (学会発表) Effects of Stress Manage-

ment Seminar Based on Cognitive Behavioral Therapy for Job Seekers, 3<sup>rd</sup> Asian Cognitive Behavioral Therapy Conference, Final program & abstracts, July, Korea, 2011, 91.

高橋美保・森田慎一郎・石津和子・李健實(学会発表) 日韓の就労者が抱く失業者への意識の比較検討—コミュニティ感覚に注目して— コミュニティ心理学会第14回大会, 2011年7月, 東京, 94-95.

高橋美保・森田慎一郎・石津和子(学会発表) コミュニティ感覚および就労意識が失業者のステイグマ意識に及ぼす影響—国際比較研究から 日本教育心理学会第53回総会, 2011年7月, 札幌, 568.

石津和子・高橋美保・森田慎一郎(学会発表) 高校生における失業者に対する意識

—キャリア意識との関連を中心に—日本心理学会第75回大会, 2011年9月, 東京, 231.

森田慎一郎・石津和子・高橋美保(学会発表) 大学生におけるキャリア観の日中比較

—一文系の1, 2年生に着目して—日本心理学会第75回大会, 2011年9月, 東京, 1000.

高橋美保・森田慎一郎・石津和子(学会発表) 高校生を対象としたライフキャリア教育の実践研究 働くことと生きることをテーマとした認知行動療法的アプローチ 日本発達心理学会第23回大会, 2012年3月, 名古屋, 559.

### 〈その他の業績〉

高橋美保(講演者) 東京大学駒場祭公開講座“ストレス～働く人のメンタルヘルス”, 2011年5月, 東京大学.

高橋美保(講演者) 平成23年度駒沢学園心理相談センター主催セミナー「続・心理療法を考える」“産業領域における臨床心理学” 2011年5月, 駒沢女子大学.

高橋美保(パネリスト) 内観と体験過程—ことばという視点から 第34回日本内観学会大会 パネルディスカッション—内観と体験過程—, 臨床心理学における内観療法の布置—内観療法を臨床心理学にどう生かすか 第34回日本内観学会大会プログラム・抄録集, 262-63. 2011年6月, 文教大学.

高橋美保(指定討論者) 日本心理学会第75回大会 ワークショップ “職場のストレスとメンタルヘルス—ポジティブアプローチによる新しい展開—”, 2011年9月, 日本大学.

## 石丸 径一郎 (講師)

## 〈著書〉

石丸径一郎 (単著), 『臨床心理学研究法シリーズ第5巻 調査研究の方法』, 新曜社, 2011, 総頁数207.

石丸径一郎 (分担執筆), 「性の問題と学生相談」, 下山晴彦・森田慎一郎・榎本真理子 (編) 『学生相談必携GUIDEBOOK: 大学と協働して学生を支援する』, 金剛出版, pp.248-260, 2012.

## 〈雑誌論文〉

向後裕美子・金智慧・石丸径一郎 (共著), 「ある心理専門職の語りの協働的分析の試み I」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 34, 219-226, 2011.

石丸径一郎 (単著), 「災害PTSDからの回復のために認知行動療法を活用する」, 『臨床心理学』, 12(2), 200-205, 2012.

## 〈学会発表〉

石丸径一郎・針間克己 (口頭発表), 「性別違和の強度を評価する自記式質問紙尺度 (UGDS) 日本語版の信頼性, 妥当性, カットオフ値」, GID (性同一性障害) 学会 第13回研究大会, 一般演題5, ゲートシティ大崎, 2011年6月5日.

石丸径一郎 (口頭発表), 「性犯罪加害者へのカウンセリングの実際」, 第31回日本性科学学会学術集会, シンポジウムII 「性暴力・性犯罪とその対応」, 東京慈恵会医科大学, 2011年10月2日.

## 〈その他〉

石丸径一郎 (報告), 「第13回性科学セミナー報告」, 『日本性科学会ニュース』, 30(4), 3, 2011.

William Yule・松丸未来・石丸径一郎 (ワークショップ講師), 「震災被害における心理支援のための緊急ワークショップ (日本心理臨床学会) 〈子どものトラウマ体験からの回復支援のグループワーク技法を学ぶ〉」, 東京大学本郷キャンパス, 2011年10月8~9日.

## 身体教育学コース

## 多賀 徹太郎 (教授)

## 〈雑誌論文〉

H. Watanabe, F. Homae, G. Taga: Developmental emergence of self-referential and inhibition mechanisms of body movements underlying felicitous behaviors. *Journal of Experimental Psychology - Human perception and performance* 37, 1157-1173,

2011

S. Sasai, F. Homae, H. Watanabe, G. Taga: Frequency-specific functional connectivity in the brain during resting state revealed by NIRS. *NeuroImage* 56, 252-257, 2011

F. Homae, H. Watanabe, T. Nakano, G. Taga: Large-scale networks underlying language acquisition in early infancy. *Frontiers in Psychology* 2, 93, 2011

Y. Yabe, H. Watanabe, G. Taga: Treadmill experience alters treadmill effects on perceived visual motion. *PLoS ONE* 6, e21642, 2011

G. Taga, H. Watanabe, F. Homae: Spatiotemporal properties of cortical hemodynamic response to auditory stimuli in sleeping infants revealed by multi-channel NIRS. *Phil. Trans. R. Soc. A.* 369, 4495-4511, 2011

F. Homae, H. Watanabe, T. Nakano, G. Taga: Functional development in the infant brain for auditory pitch processing. *Human Brain Mapping* 33: 596-608, 2012

H. Watanabe, F. Homae, G. Taga: Activation and deactivation in response to visual stimulation in the occipital cortex of 6-month-old human infants. *Developmental Psychobiology* 54, 1-15, 2012

N. Kanemaru, H. Watanabe, G. Taga: Increasing selectivity of interlimb coordination during spontaneous movements in 2- to 4-month-old infants. *Experimental Brain Research* 218, 49-61, 2012

多賀徹太郎: 脳と行動の初期発達, 発達心理学研究 22 : 349-356, 2011

## 〈その他〉

G. Taga: NIRS imaging of connectivity in development. Brain Connectivity Workshop, Montreal, Canada, June 23, 2011 (invited)

G. Taga: Early development of functional network of the cortex in infants. Workshop on the Mechanism of Brain and Mind, Kobe, Japan, Aug. 21, 2011 (invited)  
多賀徹太郎: 脳と身体の初期発達, 脳性麻痺研究会, 千葉, 2011.11.3 (招待)

G. Taga: Early development of cortical networks in human infants. 27<sup>th</sup> Annual Mortimer D. Sackler Winter Conference on Developmental Psychobiology, Hawaii, USA, Jan. 6, 2012 (invited)

G. Taga: NIRS imaging of functional connectivity in the developing brain UK-JAPAN workshop in multimodal brain imaging. London, UK, Feb. 27-29, 2012 (invited)

## 野崎大地 (教授)

## 〈論文〉

- Kasuga S, Nozaki D, “ Crosstalk in implicit assignment of error information during bimanual visuomotor learning”, *Journal of Neurophysiology*, Vol.106, No.3, 2011, pp.1218-1226
- Yokoi A, Hirashima M, Nozaki D, “Gain-field encoding of the kinematics of both arms in the internal model enables flexible bimanual action” *Journal of Neuroscience*, Vol.31, 2011, pp.17058-17068
- Yokoi A, Hirashima M, Nozaki D, “Flexible switching of multiple internal models during bimanual movement”, *Sportology*, Vol.1, 2011, pp.41-48
- Ikegami T, Hirashima M, Osu R, Nozaki D, “Intermittent visual feedback can boost motor learning of rhythmic movements: evidence for error feedback beyond cycles”, *Journal of Neuroscience*, Vol.32, 2012, pp.653-657
- Hirashima M, Nozaki D, “ Distinct motor plans form and retrieve distinct motor memories for physically identical movements”, *Current Biology*, Vol.22, 2012, pp.432-436
- 横井惇, 平島雅也, 野崎大地, 「柔軟な両腕動作制御を可能にする脳内メカニズム」バイオメカニクス研究, Vol.15, 2012, pp.144-154

## 〈その他〉

- 野崎大地, 「運動学習と脳内過程－神経・脳科学の最新の知見」, 第1回東京工科大学神経・脳科学セミナー, 2011年9月
- 野崎大地, 「だまして分かる脳が身体を操るメカニズム」, 第114回東京大学公開講座, 2011年9月
- Nozaki D, “ Redundant nature of movement control process revealed by flexibility of motor learning. 柔軟な運動学習能力によって明らかになる運動制御系の冗長な性質”, 第26回生体・生理工学シンポジウム, 2011年9月
- 野崎大地, 「運動制御・学習の脳内過程がもつ冗長性」, 第48回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2011年11月

## 山本義春 (教授)

## 〈論文〉

- Kiyono, K., J. Hayano, S. Kwak, E. Watanabe, and Y. Yamamoto. Non-Gaussianity of low frequency heart rate variability and sympathetic activation: lack of

increases in multiple system atrophy and Parkinson disease. *Frontiers in Physiology* 3: 34-1-10, 2012.

- Kishi, A., B. H. Natelson, F. Togo, Z. R. Struzik, D. M. Rapoport, and Y. Yamamoto. Sleep stage dynamics in chronic fatigue syndrome patients with or without fibromyalgia. *SLEEP* 34: 1551-1560, 2011.
- Kishi, A., H. Yasuda, T. Matsumoto, Y. Inami, J. Horiguchi, M. Tamaki, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Non-REM sleep stage transitions control ultradian REM sleep rhythm. *SLEEP* 34: 1423-1432, 2011.
- Hayano, J., K. Kiyono, Z. R. Struzik, Y. Yamamoto, E. Watanabe, P. K. Stein, L. L. Watkins, J. A. Blumenthal, and R. M. Carney. Increased non-Gaussianity of heart rate variability predicts cardiac mortality after an acute myocardial infarction. *Frontiers in Physiology* 2: 65-1-11, 2011.
- Kikuchi, H., K. Yoshiuchi, Y. Yamamoto, G. Komaki, and A. Akabayashi. Does sleep aggravate tension-type headache?: An investigation using computerized ecological momentary assessment and actigraphy. *BioPsychoSocial Medicine* 5: 10-1-8, 2011.
- Pan, W., Y. Liu, Z. Fang, X. Zhu, S. Kwak, and Y. Yamamoto. A compound belonging to traditional Chinese medicine improves nocturnal activity in Parkinson's disease. *Sleep Medicine* 12: 307-308, 2011.
- Pan, W., Y. Yamamoto, and S. Kwak. Objective evaluation of the severity of Parkinsonism using power-law temporal auto-correlation of activity. In: *Diagnostics and Rehabilitation of Parkinson's Disease*, Dushanova, J., editor. Intech, pp. 225-238, 2011.
- Kikuchi, H., K. Yoshiuchi, K. Ohashi, F. Sato, Y. Takimoto, A. Akabayashi, and Y. Yamamoto. Food intake and heart rate variability: toward a momentary biopsychosocial understanding of eating behavior. In: *Handbook of Behavior, Food and Nutrition*, Preedy, V. R., Watson, R. R., and C. R. Martin, editors. Springer, London, pp. 845-863, 2011.
- 中村亨, 菊地裕絵, 吉内一浩, 山本義春. 数理科学モデルから精神行動異常を解く. *精神科* 18: 554-559, 2011.
- 〈招待講演・シンポジウム講演〉  
Yamamoto, Y. Noise and fluctuations in human

physiology: anomalous statistics in health and diseases (Plenary Talk). *The 21st International Conference on Noise and Fluctuations*. Toronto, Canada (June, 2011).

山本義春. 心拍変動の複雑性を解き明かす. 第27回心電情報処理ワークショップ・特別講演. 山梨, 2011年10月.

## 東郷史治 (准教授)

### 〈著書〉

東郷史治 (単著), 「高齢者 (認知症高齢者も含む) の睡眠障害の特徴は」, 『認知症者の転倒予防とリスクマネジメント』, 転倒予防研究会監修, 日本医事新報社, 2011, pp.37-41.

Togo, F. (共著), 「Sleep and Fibromyalgia」, (A. Kishi, B.H. Natelson氏との共著), 『New Insights into Fibromyalgia』, Ed by W.S. Wilke, InTech, 2011, pp.3-18.

### 〈雑誌論文〉

東郷史治 (共著), 「介護老人保健施設における女性交代制勤務者の食事摂取と体重増加の関連」(多田由紀氏, 松本晴美氏, 吉崎貴大氏, 児玉俊明氏, 森佳子氏, 日田安寿美氏, 川野因氏との共著), 『日本循環器病予防学会誌』第47巻, 2011, pp.1-12.

東郷史治 (共著), 「暑熱作業環境下での水分摂取量の違いが人体に及ぼす影響」(榎本ヒカル氏, 澤田晋一氏, 安田彰典氏, 岡龍雄氏, 上野哲氏, 池田耕一氏との共著), 『労働安全衛生研究』第4巻, 2011, pp.7-13.

Togo, F. (共著), 「Sleep-stage dynamics in patients with chronic fatigue syndrome with or without fibromyalgia」(A. Kishi氏, B.H. Natelson氏, Z.R. Struzik氏, D.M. Rapoport氏, Y. Yamamoto氏との共著), 『Sleep』第34号, 2011, pp.1551-1560.

Togo, F. (学会発表), 「Fractal heart rate dynamics during sleep in patients with chronic fatigue syndrome」, 『Sleep and Biological Rhythms』第9巻, 2011, pp.348.

Togo, F. (学会発表), 「Falls and depressive symptoms in older Japanese Adults」, 『The Gerontologist』第51巻, 2011, pp.S446.

Togo, F. (招待シンポジウム), 「Objective measures of sleep and subjective sleepiness for patients with chronic fatigue syndrome」, 『American Psychosomatic Society 70th Annual Meeting, Program』, 2012,

pp.7.

## 森田賢治 (講師)

### 〈雑誌論文〉

Morishima, M., K.Morita, Y.Kubota, and Y.Kawaguchi, 「Highly Differentiated Projection-Specific Cortical Subnetworks」『The Journal of Neuroscience』第31巻, 2011, pp.10380-10391.

Li, X., K.Morita, H.P.C.Robinson, and M.Small, 「Impact of gamma-oscillatory inhibition on the signal transmission of a cortical pyramidal neuron」『Cognitive Neurodynamics』第5巻, 2011, pp.241-251.

Twomey T., K.J.Kawabata Duncan, J.S.Hogan, K.Morita, K.Umeda, K.Sakai, and J.T.Devlin, 「Dissociating visual form from lexical frequency using Japanese」『Brain and Language』, 印刷中 (オンライン版にて公開済み, doi:10.1016/j.bandl.2012.02.003).

## 平島雅也 (助教)

### 〈雑誌論文〉

Hirashima M, Nozaki D. Distinct motor plans form and retrieve distinct motor memories for physically identical movements. *Current Biology*. 22(5):432-436, 2012.

Ikegami T, Hirashima M, Osu R, Nozaki D. Intermittent visual feedback can boost motor learning of rhythmic movements: evidence for error feedback beyond cycles. *Journal of Neuroscience*. 32(2):653-657, 2012.

Yokoi A, Hirashima M, Nozaki D. Gain Field Encoding of the Kinematics of Both Arms in the Internal Model Enables Flexible Bimanual Action. *Journal of Neuroscience*. 31(47):17058-17068, 2011.

Fujii S, Hirashima M, Kudo K, Ohtsuki T, Nakamura Y, and Oda S. Synchronization Error of Drum Kit Playing with a Metronome at Different Tempi by Professional Drummers. *Music Perception*. 28(1):491-503, 2011.

### 〈分担執筆の著書〉

平島雅也 (共著), 「スポーツにおける姿勢とフォーム」『姿勢の脳・神経科学—その基礎から臨床まで—』, 市村出版, 2011, pp.21-35

Hirashima M (共著). Induced Acceleration Analysis of Three-Dimensional Multi-Joint Movements and Its Application to Sports Movements. In: *Theoretical Biomechanics*, V. Klika, ed. (InTech), pp. 303-318, 2011.

## 教職開発コース

藤江 康彦 (准教授)

### 〈雑誌論文〉

藤江康彦 (単著), 「問題解決: 「理解」を深める学習のあり方」, 『教育研究』平成23年8月号, 社団法人初等教育研究会, 2011, pp.28-29.

藤江康彦 (単著), 「学習意欲: 学びの基盤を育む」, 『教育研究』平成23年8月号, 社団法人初等教育研究会, 2011, pp.34-35.

### 〈学会発表〉

藤江康彦 (指定討論), 「教師の学びの質を捉える: 連続性の視点から」, 日本教育心理学会第53回総会 (於: かでる2.7), 2011年7月24日.

## 教育内容開発コース

斎藤 兆史 (教授)

### 〈著書〉

『3か月トピック英会話 (10-12月期) ——聴く読むわかる! 英文学の名作名場面』日本放送出版協会, 2012年1月号 (再放送分), 2012年, (+付属CD).

『3か月トピック英会話 (10-12月期) ——聴く読むわかる! 英文学の名作名場面』日本放送出版協会, 2012年2月号 (再放送分), 2012年, (+付属CD).

『3か月トピック英会話 (10-12月期) ——聴く読むわかる! 英文学の名作名場面』日本放送出版協会, 2012年3月号 (再放送分), 2012年, (+付属CD).

### 〈分担執筆〉

斎藤兆史 「足場としての学習英文法」, 大津由紀雄編著『学習英文法を見直したい』研究社, 2012: 26-37.

藤村 宣之 (教授)

### 〈著書〉

藤村宣之 (分担執筆), 「児童期」(無藤隆・子安増生 (編)) 『発達心理学 I』東京大学出版会, 2011, (Pp.299-338)

### 〈雑誌論文〉

藤村宣之 (単著), 「教授・学習活動を通じた数学的概念の変化」, 『心理学評論』第54巻第3号, 心理学評論刊行会, 2011, pp.296-311.

### 〈学会発表〉

藤村宣之 「数学的リテラシーを育成するための算

数・数学科の授業づくり: 教育心理学によるアプローチ」, 日本教育心理学会第53回総会準備委員会企画シンポジウム「授業づくり」を支援する「教科の心理学」の新しいフレームワーク」2011年7月25日

## 学校開発政策コース

大桃 敏行 (教授)

### 〈著書〉

#### 【分担執筆】

Toshiyuki Omomo, "Japan," Charles L. Glenn, Jan De Groof and Cara Stillings Candal, eds., *Balancing Freedom, Autonomy, and Accountability in Education*, Vol. 4, Wolf Legal Publishers: The Netherlands, 2012, pp.121-135.

### 〈紀要論文等〉

島田桂吾・大桃敏行 (共著) 「合併市における教委・首長部局間の事務執行の再編に関する調査研究」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第51巻, 2012年, 419-428頁.

背戸博史・大桃敏行 (共著) 「子育て支援行政の総合化による生涯学習施策の新たな展開—浦添市の事例分析—」『琉球大学生涯学習教育研究センター研究紀要』第6号, 2012年, 51-64頁.

大桃敏行 (単著) 「競争による早期学習の質保証と機関連携—米国「頂点への競争—早期学習チャレンジ (RTT-ELC)」プログラムの分析—」宮腰英一 (研究代表者) 『「子ども・青少年」行政の統合化と専門家養成に関する国際比較研究』(平成21~23年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書) 2012年, 39-47頁.

### 〈学会発表, その他〉

大桃敏行 「クリントン政権初期の教育ガバナンス改革—平等保障と結果の重視—」日本教育制度学会第19回大会, 玉川大学, 2011年11月19日.

大桃敏行 「再構成を促される, 震災後の学校」東京大学広報室『淡青』第25号, 2011年, 36頁.

勝野 正章 (准教授)

### 〈著書: 共著〉

小川正人・勝野正章 『教育行政と学校経営』, 放送大学教育振興会, 276p, 2012年3月, (執筆箇所: 第9章「学校経営をめぐる政策動向」pp.155-171, 第10章「学校の組織と文化」pp.172-187, 第11章「学校におけるリーダーシップ」pp.188-202, 第

12章「学校評価と学校改善」 pp.203-218, 第14章「教員の評価と専門職としての成長」 pp.240-257, 第15章「学校のガバナンスと経営」 pp. 258-274)

〈著書：分担執筆〉

汐見稔幸・伊藤毅・高田文子・東宏之・増田修治編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房, 2011年4月, (執筆箇所「教育課程・カリキュラムの現在と歴史」 pp.102-105, 「指導要録・通知表」 pp.136-138)

〈雑誌論文〉

勝野正章「『日の丸・君が代』 予防訴訟・高裁判決で窒息する学校現場」『世界』2011年4月号, pp.25-28.

勝野正章「教育と憲法—学校民主主義(スクールデモクラシー)の現状と可能性」『法学館憲法研究所報』第5号, 2011年7月, pp.1-22.

勝野正章「『日の丸・君が代』最高裁判決で問われる学校観」『世界』2011年8月号, pp.20-24.

勝野正章「学校評価と学校づくり」『学校運営』全国公立学校教頭会編集・発行, 2011年8月号, pp.20-23

勝野正章「教育の質から教職員の勤務時間を考える」『クレスコ』2011年9月号, 大月書店, pp.12-15.

勝野正章「教職への優秀な人材の確保」『教職研修』2012年1月号, pp.52-54

金龍・勝野正章「アカウンタビリティのための自律化と自律性の委縮—韓国における学校自律化政策の展開と現況」東京大学大学院教育学研究科紀要第51巻, 2011年3月, pp.429-440.

勝野正章「教育評論」『学校事務』連載(2011年4月号~2012年3月号)

〈学会等発表〉

Katsuno, M., Teachers' professional identities in the era of testing accountability: Cases in Japanese schooling, British Educational Research Association Conference 2011, 6<sup>th</sup> to 8<sup>th</sup> September, Institute of Education, the University of London.

Katsuno, M., Professional learning community in an era of managerialism and testing accountability, The World Association of Lesson Studies International Conference 2011, 26<sup>th</sup> to 27<sup>th</sup> November, 2011, The University of Tokyo, Symposium 5: School Management from the View of Teacher's Professional Community.

勝野正章「学校評価と学校づくり—現状と課題—」大学評価学会第9回全国大会 2012年3月11日 早稲田大学 第2分科会「学校評価から学ぶ」

村上祐介(准教授)

〈著書〉

財団法人日本都市センター編, 『発達障害支援ネットワーク構築に向けて』, 財団法人日本都市センター, 2012, 28-43頁(「発達障害支援ネットワーク構築に向けた体制づくりと課題」)を担当

財団法人日本都市センター編, 『徴税行政における人材育成と専門性』, 財団法人日本都市センター, 2012, 14-26頁(「徴税行政の人材育成における自治体間連携の手法と可能性」)を担当

杉原誠四郎監修, 『必携学校小六法』, 協同出版, 2012, 940-971頁(「教育法制史年表」)を担当

教育開発研究所編, 『教育の最新事情がよくわかる本2』, 教育開発研究所, 2011, 10-21頁, 26-31頁, 43-45頁, 63-65頁を担当

〈雑誌論文〉

村上祐介(単著), 「教育委員会制度の改革論議をめぐる課題」, 『地方自治職員研修』, 2012年3月号, 公職研, 20-22頁

村上祐介(単著)「地方分権改革以後の教育政策の変容とその要因」, 『人間研究』, 第48号, 日本女子大学教育学科の会, 2012, 31-43頁

村上祐介(単著)「教育学における事例研究の方法論再考—一定性的研究における比較の方法—」, 『教育学研究』, 第78巻第4号, 2011, 398-410頁

村上祐介(単著)「大阪府における教育関連条例と教育委員会制度の課題」, 『季刊教育法』第170号, 2011, 30-35頁

〈その他〉

村上祐介(単著)「書評・樋口修資『教育委員会制度変容過程の政治力学』」, 『戦後教育史研究』, 第25号, 明星大学戦後教育史研究センター, 165-168頁

村上祐介(単著), 「書評にお応えして」, 『教育制度学研究』第18号, 日本教育制度学会, 2011, 237-241頁

村上祐介(単著), 「自治体における委員制度の概要と課題」, 『みんなのスポーツ』, 第378号, 日本体育社, 2011, 12-14頁

村上祐介(単著), 「教育行政改革のインパクトをめぐる論点」, 『日本教育行政学会年報』, 第37号,

日本教育行政学会, 2011, 185-188頁

〈学会発表〉

村上祐介, 荻原克男, 川上泰彦 (共同発表), 「教育行政改革の内部環境と外部環境」, 日本教育行政学会第46回大会, 2011年10月8日

村上祐介, 「自治体の行政委員会制度と縦割り行政」, 2011年度日本公共政策学会研究大会 2011年6月16日

Yusuke Murakami, "Policy changes in the DPJ government", Paper prepared for The annual meeting of the Association for Asian Studies, Honolulu, 2011.4.3.

学校教育高度化センター

植 阪 友 理 (助教)

〈学術雑誌論文〉

Manalo, E., & Uesaka, Y. (2011). Drawing attention to diagram use. *Science*, 334(6057), 761.

山崎藤香・植阪友理・松崎純子 (2011) 指点字を用いた通訳介助における効果的な被打点位置および通訳者の手指の状態の検討—文字の読み取りの正確さに着目して—*視覚リハビリテーション研究*, 1, 1-10.

木下英子・植阪友理・松崎純子 (2011) 全盲状態における効果的な粉末調味料のすり切り方—3種類の計量スプーンを用いた検討—*視覚リハビリテーション研究*, 1, 11-18.

Uesaka, Y., & Manalo, E. (2012). Task-related factors that influence the spontaneous use of diagrams in math word problems. *Applied Cognitive Psychology*, 26(2), 251-260.

Manalo, E., Uesaka, Y., Pérez-Kriz, S., Kato, M., & Fukaya, T. (2012). Science and engineering students' use of diagrams during note taking versus explanation. *Educational Studies*. DOI:10.1080/03055698.2012.680577

〈著書〉

植阪友理 (2012) 算数・数学における自己調整学習—日本の児童・生徒のつまずきの原因とその支援策を中心に—自己調整学習研究会 (編) *自己調整学習—理論と実践の新たな展開へ—* (pp.157-181). 北大路書房

植阪友理 (2012) 授業を通して教科横断的な学習スキルを育てる 市川伸一 (編) *新学習指導要領対応：教えて考えさせる授業 中学校版*

(pp.129-142). 図書文化

〈国際学会における発表〉

Uesaka, Y., & Manalo, E. (2011, July). *The effects of peer communication with diagrams on students' math word problem solving processes and outcomes*. Paper presented at the 33rd Annual Conference of the Cognitive Science Society, Boston, Massachusetts, USA. (Paper included in L. Carlson, C. Hoelscher, & T. Shipley (Eds.), *Proceedings of the 33rd Annual Conference of the Cognitive Science Society* (pp.312-317). Austin, TX: Cognitive Science Society.)

Uesaka, Y., Manalo, E., Takahashi, M., Mine, R., & Maki, A. (2011, August/September). *School curriculum development to improve students' strategy use: Focusing on diagrams use in math*. Paper presented at the EARLI (European Association for Researchers on Learning and Instruction) Conference, University of Exeter, United Kingdom.

Manalo, E., Uesaka, Y., Wajima, Y., & Yano, Y. (2011, August/September). *Mental representation of diagrams: An investigation using free writing and correspondence analysis*. Paper presented at the EARLI (European Association for Researchers on Learning and Instruction) Conference, University of Exeter, United Kingdom.

〈国内学会における発表〉

植阪友理 (2011年6月) 効果的な勉強方法のあり方と先進校での指導, 第4回教育研究交流会話題提供 第4回教育研究交流会予稿集 (p.6)

植阪友理・Emmanuel Manalo・Masashi Kato・深谷達史 (2011年6月). *理工系大学生のコミュニケーションカー「分かりやすい説明」のために図表を活用できているのか?—第4回教育研究交流会ポスター発表 第4回教育研究交流会予稿集* (p.9)

植阪友理 (2011年7月). 「教え合いによる深い理解」をはばむ学習者の信念 シンポジウム「協同学習の質を高めるには何が必要か—深い理解に至らない原因とその対処法を考える」話題提供 日本教育心理学会第53回総会発表論文集 (pp.78-79)

植阪友理・Emmanuel Manalo・Masashi Kato・深谷達史 (2011年7月) コミュニケーション場面における図表の活用—大学生に学習内容の説明をさせる際の自発的な利用に着目して— 日本教育心理学会第53回総会予稿集 (p.320).

植阪友理・中川正宣 (2012年9月) 教師の予測の精度を解析する数理モデルの開発とその適用ー見過ごされてきた学力・学習力を検出する実証的方法の提案ー日本認知科学会ポスター発表 日本認知科学会第28回大会予稿集 (pp.350-356).

#### 〈講演〉

植阪友理 (2012年1月) 「一人ひとりの子どもたちの学びを育む学習支援について」, 神奈川県立総合教育センターにおける講演 (招待講演)

植阪友理 (2011年7月) 「学び方の改善を通じた自立支援ー心理学からみたつまづきの原因とその支援策ー」, 岡山県津山市立北小学校における講演 (招待講演)

#### 〈賞罰〉

日本教育心理学会 城戸奨励賞受賞 (2011年7年)  
※植阪友理 学習方略は教科間でいかに転移するかー「教訓帰納」の自発的な利用を促す事例研究からー教育心理学研究, 2010, 58, 80-94に対する受賞

日本認知科学会 学会発表賞受賞 (2011年9月) ※植阪友理・中川正宣 (2011) 教師の予測の精度を解析する数理モデルの開発とその適用ー見過ごされてきた学力・学習力を検出する実証的方法の提案ーに対する受賞

#### コンピュータ相談室

紙名哲生 (特任助教)

#### 〈査読付論文〉

Katsunori Shindo, Tetsuo Kamina, Noboru Koshizuka, and Ken Sakamura (学会発表), ucR-based Spatial Information Framework, In Proc. 7th International Conference on Network Computing and Advanced Information Management (NCM2011), 2011, pp.256-261.

Tomoyuki Aotani, Tetsuo Kamina, and Hidehiko Masuhara (学会発表), Featherweight EventCJ: A Core Calculus for a Context-Oriented Language with Event-Based Per-Instance Layer Transition, In Proc. 3rd International Workshop on Context-Oriented Programming (COP' 11), ACM, 2011, pp.1:1-7.

紙名哲生, 青谷知幸, 増原英彦, 玉井哲雄 (学会発表), 「ユースケースを用いた文脈指向ソフトウェア開発」, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2011 (SES2011), 2011, 8 pages.

#### 〈査読無し論文〉

青谷知幸, 紙名哲生, 増原英彦, 「オブジェクト毎の層遷移を宣言的に記述できる文脈指向言語 EventCJ」, 日本ソフトウェア科学会第28回大会, 2011年9月, 11 pages.

#### 〈口頭発表〉

Tetsuo Kamina, Tomoyuki Aotani, Hidehiko Masuhara, and Tetsuo Tamai, COSE: Context-Oriented Software Engineering with Use Cases and Event-Based Context Transition, In AOAsia/Pacific'11, October 2011.

Tomoyuki Aotani, Tetsuo Kamina, and Hidehiko Masuhara, Towards optimizing EventCJ programs, In AOAsia/Pacific'11, October 2011.

#### 大学発教育支援コンソーシアム室

#### 三宅なほみ (教授)

#### 〈著書〉

三宅なほみ, 「6.発達の過程」 「7.概念の発達」 「8.日常的な概念発達」 「9.文化と制約」 「10.状況と学習」 「11.学習への動機づけ」 「12.協調的な学習」 「13.評価」 「14.学校と社会の連携ーITの活用」 「15.教育心理学の研究方法ー21世紀の教育へ向けて」, 三宅芳雄 (編), 『教育心理学特論』, (財) 放送大学教育振興会, 2012, pp.87-239.

三宅なほみ (共著), 「15.教育心理学の研究方法ー21世紀の教育にむけて」, 三宅芳雄 (編), 『教育心理学特論』, (財) 放送大学教育振興会, 2012, pp.240-255.

#### 〈雑誌論文〉

土屋衛治郎, 白水始, 三宅なほみ, 「講義のフレームを可視化することによる理解支援」, 『認知科学』, 2011, pp.366-369.

三宅なほみ, 「概念変化のための協調過程ー教室で学習者同士が話し合うことの意味ー」, 『心理学評論』, 2011, pp.328-341.

Miyake, N., Seto, F., Mizukawa, M., Kotosaka, S., & Sato, T., "Focusing on the Learning Process and Producing an Education Literature", *Journal of Robotics and Mechatronics*, 2011, pp.607-610.

三宅なほみ, 石黒浩, 「人とロボットの協創へ向けて」, 『日本ロボット学会誌』, 2011, pp.868-870.

大島純, 三宅なほみ, 「人口ロボット共生学における「知恵の協創」」, 『日本ロボット学会誌』, 2011, pp.875-878.

三宅なほみ, 齊藤萌木, 飯窪真也, 利根川太郎, 「学

- 習者中心型授業へのアプローチ—知識構成型ジグソー法を軸に—, 『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 2012, pp.441-458.
- 白水始, 三宅なほみ, 「デザイン原則の新たな抽出・共有方法の提案」, 『日本教育工学会第27回全国大会』予稿集, 2011.
- 三宅なほみ, 「人とロボットが学び合う協創社会へ向けて」, 『第29回日本ロボット学会学術講演会』論文集, 2011.
- 三宅なほみ, 「学譜：新しい学びの過程と成果の共有に向けて」, 『第29回日本ロボット学会学術講演会』論文集, 2011.
- 大島純, 大島律子, 三宅なほみ, 「協調文献読解を支援するロボット」, 『第29回日本ロボット学会学術講演会』論文集, 2011.
- 白水始, 三宅なほみ, 「共同問題解決におけるロボットの“リボイス”の効果」, 『第29回日本ロボット学会学術講演会』論文集, 2011.
- Saito, M., & Miyake, N., Socially constructive interaction for fostering conceptual change, *Proceedings of CSCL2011*, 2011.
- Miyake, N., Fostering conceptual change through collaboration: Its cognitive mechanism, socio-cultural factors, and the promises of technological support, *Proceedings of CSCL2011*, 2011.
- Miyake, N., Ishiguro, H., Kanda, T. & Shirouzu, H., Robot's revoicing for student-centered knowledge construction: How far can we minimize robot's utterances?, *Proceedings of CSCL2011*, 2011.
- Miyake, N., Oshima, J. & Shirouzu, H., Robots as research partners for promoting, *Proceedings of CSCL2011*, 2011.
- 大武美保子, 大谷昂, 小泉智史, 吉川雅博, 松本吉央, 三宅なほみ, 「高齢者が遠隔操作するロボットを用いた司会による共想法形式のグループ会話支援」, 『第25回人工知能学会全国大会論文集』, 2011.
- Miyake, N., Knowledge constructive jigsaw as an adaptive learning framework: Its design principles and network supports, Key note address, *Proceedings of ALICE 2011 Workshop*, 2011.
- Miyake, N., Oshima, J., & Shirouzu, H., Robots as a research partner for promoting young children's collaborative learning, *Proceedings of the 6th ACM/IEEE International Conference on Human-Robot Interaction*, 2011.
- Miyake, N., Ishiguro, H., Dautenhahn, K., and Nomura, Robots with children: practices for human-robot symbiosis, *Proceedings of the 6th ACM/IEEE International Conference on Human-Robot Interaction*, 2011.
- 〈一般誌〉
- 三宅なほみ, 特別寄稿「協調的な学びの仕組み」, 『全普高会誌』第59号, 岩波書店, 2011, pp. 537-540.
- 三宅なほみ, 齊藤萌木, 飯窪真也, 巻頭特集「一人一人の学びが輝く協調学習 学習の新しいゴールを目指して」, 『埼玉教育』, 2011, pp.1-9.
- 三宅なほみ, 「新しい授業の形『協調学習』のすすめ」, 『総合教育技術』11月号, 小学館, 2011, pp.3-6.
- 三宅なほみ, 「東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構の試み—知識構成型ジグソー法による授業づくりを軸に—」, 『IDE現代の高等教育』, 2011, pp.40-44.
- 三宅なほみ, 巻頭論文「これからの社会と『協調学習』」, 『月刊 教職研修』, 教育開発研究所, 2012, pp.7-9.
- 飯窪真也(特任助教)
- 〈紀要・雑誌論文・報告書等〉
- 三宅なほみ, 齊藤萌木, 飯窪真也(共著)「学習の新しいゴールを目指して」『埼玉教育』No.749, 埼玉県立総合教育センター, 2011年, pp.1-9.
- 小川園子, 飯窪真也, 齊藤萌木(共著)「英語教育における協調学習の可能性—実践的な英語力育成のための授業デザイン—」『埼玉教育』No.749, 埼玉県立総合教育センター, 2011年, pp.10-13.
- 下山尚久, 飯窪真也, 齊藤萌木(共著)「理科における協調学習を引き起こす授業づくり—学びの概念の変容を目指して—」『埼玉教育』No.751, 埼玉県立総合教育センター, 2012年, pp.7-10.
- 水村晃輔, 矢嶋渉, 畑文子, 飯窪真也, 齊藤萌木(共著)「一人1人が学び続ける明日のために—県立富士見高等学校における協調学習の実践—」『埼玉教育』No.752, 埼玉県立総合教育センター, 2012年, pp.9-14.
- 飯窪真也(単著)「NCLB法下における教職の専門的自律性を追求する改革の可能性と限界」北野秋男(研究代表者)『現代アメリカのアカウンタビリティ・アセスメント行政の総合的研究』(科学

研究基盤研究費 (B) 研究成果報告書 (2009年度-2011年度) 2012年, pp.73-77.

飯窪真也 (単著) 「協調学習を柱とした授業の継続的改善ネットワークにおける教員の協調と理解深化」『東京大学教育学研究科紀要』第51巻, 2012年, pp.467-484.

三宅なほみ, 齊藤萌木, 飯窪真也, 利根川太郎 (共著) 「学習者中心型授業へアプローチ—知識構成型ジグソー法を軸に—」『東京大学教育学研究科紀要』第51巻, 2012年, pp.441-458.

志茂こづえ, 飯窪真也, 森田智幸 (共著) 「第2章 青森県階上町階上中学校」東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻佐藤学研究室・基礎学力向上プロジェクト『報告書「学びの共同体」に基づく学校改革の挑戦 (第五集)』2012年, pp.23-46.

三宅なほみ, 飯窪真也, 齊藤萌木, 坂本篤史, 森田智幸 (共編著) 『自治体との連携による協調学習の授業づくりプロジェクト平成23年度活動報告書 協調が生む学びの多様性第2集—新しいゴールへ向けて—』東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構, 2012年, 総ページ数197

#### 〈学会発表〉

飯窪真也 (単著) 「米国ノースカロライナ州における学力困難校への介入的改革の展開—オバマ政権連邦教育政策の影響を軸に—」日本教育学会第70回大会, 2011年8月25日, 千葉大学

Sonoko Ogawa, Shinya Iikubo, Moegi Saito (共著) : Collaborative approach for acquiring communicative knowledge base in high school ESL classrooms, The World Association of Lesson Studies international conference 2011, November 2011, University of Tokyo

#### 齊藤萌木 (特任助教)

##### 〈紀要・雑誌論文・報告書等〉

三宅なほみ, 齊藤萌木, 飯窪真也 (共著) 「学習の新しいゴールを目指して」『埼玉教育』No.749, 埼玉県立総合教育センター, 2011年, pp.1-9.

小川園子, 飯窪真也, 齊藤萌木 (共著) 「英語教育における協調学習の可能性—実践的な英語力育成のための授業デザイン—」『埼玉教育』No.749, 埼玉県立総合教育センター, 2011年, pp.10-13.

齊藤萌木 (分担執筆) 『理科を教える小学校教員に向けた科学技術リテラシーのテキスト・情報の編

集に係る調査報告書』(公益財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館) 2011年9月, pp.12-18

下山尚久, 飯窪真也, 齊藤萌木 (共著) 「理科における協調学習を引き起こす授業づくり—学びの概念の変容を目指して—」『埼玉教育』No.751, 埼玉県立総合教育センター, 2012年, pp.7-10.

水村晃輔, 矢嶋渉, 畑文子, 飯窪真也, 齊藤萌木 (共著) 「一人1人が学び続ける明日のために—県立富士見高等学校における協調学習の実践—」『埼玉教育』No.752, 埼玉県立総合教育センター, 2012年, pp.9-14.

齊藤萌木 (単著) 「日本の理科教育における予想と実験を中心とした教授法の系譜—概念変化研究の知見に基づいて—」『東京大学教育学研究科紀要』第51巻, 2012年, pp.459-466.

三宅なほみ, 齊藤萌木, 飯窪真也, 利根川太郎 (共著) 「学習者中心型授業へアプローチ—知識構成型ジグソー法を軸に—」『東京大学教育学研究科紀要』第51巻, 2012年, pp.441-458.

三宅なほみ, 飯窪真也, 齊藤萌木, 坂本篤史, 森田智幸 (共編著) 『自治体との連携による協調学習の授業づくりプロジェクト平成23年度活動報告書 協調が生む学びの多様性第2集—新しいゴールへ向けて—』東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構, 2012年, 総ページ数197

#### 〈学会発表〉

Moegi Saito, Naomi Miyake (共著) “Socially Constructive Interaction for Fostering Conceptual Change.” Paper presented at 9th International Conference on Computer Supported Collaborative Learning, Hong Kong University (“Best Research Paper” 受賞)

齊藤萌木 (単著) 「日本の理科教育における科学的概念の獲得を目指す教授法の系譜—概念変化研究の知見に基づいて—」日本教育学会第70回大会, 2011年8月25日, 千葉大学

齊藤萌木 (単著) 「授業における対話の構造と学習者の知識獲得」日本認知科学会第28回大会発表論文, 2011年9月, 東京大学

Sonoko Ogawa, Shinya Iikubo, Moegi Saito (共著) : Collaborative approach for acquiring communicative knowledge base in high school ESL classrooms, The World Association of Lesson Studies international conference 2011, November 2011, University of Tokyo